分布調查報告書(21)

1994

山形県教育委員会

分布調查報告書(21)

平成5年度以降農林土木事業他関係遺跡国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡東北横断自動車道酒田線関係遺跡

平成6年3月

山形県教育委員会

本書は、山形県教育委員会が平成5年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめた ものであります。

近年の開発事業の増加に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向に あります。

さて、埋蔵文化財は、本来地域に密着したもので、ふるさと山形の個性豊かな文化の原 点ともいえる貴重な遺産であり、私たちは、先人たちが育んできたこの遺産を大切に保護 し、後世の人々に伝えてゆく責務をもっています。と同時に「未来に向けて発展する県土 づくり」を目的とした各種開発事業は県民の豊かな生活に直接結びつく重要な事業です。

こうしたことから、山形県教育委員会では、伝統文化の継承と地域社会の整備との調整 を図りながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けてゆく所存であります。

本書が埋蔵文化財の保護についての皆様のご理解を頂くうえでの一助となれば幸いです。 最後になりましたが、調査に際しましてご協力をいただきました関係各位に心から感謝 申し上げます。

平成6年3月

山形県教育委員会

教育長 佐藤 進

例 言

- 1 本書は、平成5年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成5年度以 降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査および報告書の作成は、山形県教育庁文化課の渋谷孝雄・長橋 至・佐藤正俊の 3名が担当した。
- 3 本書の編集は長橋 至・渋谷孝雄が担当した。
- 4 第1章に遺跡一覧、第2章に個々の遺跡の内容を記した。新規発見遺跡・抹消遺跡・ 範囲・位置・名称の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 5 挿図の縮尺は不統一である。各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。ただし、第2章2以下については、これをさらに縮小して使用した。第2章1の遺跡地名表の番号は当該事業内の遺跡位置図中の番号と一致する。

挿図および文中の記号は、黒丸・ \mathbf{T} (トレンチ)・ $\mathbf{T}\mathbf{T}$ (テストトレンチ) $\mathbf{T}\mathbf{P}$ (テストピット= 1×1 mの試掘区) は試掘地点、赤色部分は遺構・遺物検出地点、遺跡位置図中の赤色部分は遺跡範囲、 \mathbf{RP} -土器・ \mathbf{ST} -竪穴住居跡・ \mathbf{SE} -井戸跡・ \mathbf{SK} -土壙・ \mathbf{SD} -溝跡・ \mathbf{SP} ・ \mathbf{EP} -柱穴・ \mathbf{SX} -性格不明遺構・ \mathbf{SG} -旧河川跡を示す。

図版の遺物は2分の1・3分の1を基本とした。

6 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会および地元関係者のご協力を得た。 記して謝意を表する。

目 次

1	. p/	同館の日内、万法と経過
		調査の目的、方法
		調査の経過
I	I ii	間査の概要
	1	遺跡地名表
	(1	[) 県農林事業関係遺跡 4
	(2	2)一般国道建設・改良関係遺跡10
		3)県道建設・改良事業関係遺跡10
	(4	1)砂防関係遺跡
	(5	5)国営農地開発事業関係遺跡16
	2	試掘調査の概要
	(1	.)西ノ川遺跡18
	(2	2)宮の前遺跡20
	(3	3)家根合遺跡
	(4)嶽の腰 5 遺跡
	(5	5)月岡台の倉楯跡28
	(6	5)横岫楯跡30
	(7	7)水沢館跡32
	(8)石倉館跡34
	(9) 岡村遺跡
	(10	0)清水脇 2 遺跡38
	(11	1)廻り屋遺跡
	(12)	2) 植木場一遺跡
	(13	3) 弓張平O遺跡 ······44
	(14)	4)河原田遺跡
		5)上谷地 b 遺跡 ······48
		記録保存調査・立会い調査の概要
)ソリメA遺跡50
	(2)県営ほ場整備事業高瀬川地区関係遺跡54
	(3) 郷崎遺跡
	(4) 小四王原A遺跡 ·····60
)下柳A遺跡
	(6)小川内遺跡68
	(7)大浦C遺跡
	(8) 藤島城跡78
)生石 2 遺跡82
III		とめ
	1	新規発見遺跡84
	2	範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡84
		表-1平成5年度分布調査遺跡一覧2
		表 - 2 調査工程表
		表-3掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引85

挿図目次

第1図	県農林関係遺跡位置図(1)	
第2図	県農林関係遺跡位置図(2)	
第3図	一般国道改良事業関係遺跡位置図	
第4図	県道建設・改良事業関係遺跡位置図(1)	····12
第5図	県道建設・改良事業関係遺跡位置図(2)	13
第6図	砂防・国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡位置図	16
第7図	西ノ川遺跡概要図	18
第8図	宮の前遺跡概要図	
第9図	宮の前遺跡遺構配置図	
第10図	宮の前遺跡土層断面図	
第11図	家根合遺跡概要図	
第12図	嶽の腰 5 遺跡位置図	
第13図	月岡台の倉楯跡跡概要図	
第14図	横岫楯跡概要図	
第15図	水沢館跡概要図	
第16図	石倉館跡概要図	
第17図	岡村遺跡概要図	
第18図	清水脇 2 遺跡概要図	
第19図	廻り屋遺跡概要図	
第20図	植木場一遺跡概要図	····42
第21図	弓張平〇遺跡概要図	
第22図	河原田遺跡概要図	46
第23図	上谷地 b 遺跡概要図·····	48
第24図	ソリメA遺跡概要図	····50
第25図	ソリメA遺跡遺構配置図·····	
第26図	ソリメA遺跡遺構土層断面図	····52
第27図	高瀬川地区調査概要図(1)	54
第28図	高瀬川地区調査概要図(2)	
第29図	高瀬川地区(野瀬遺跡遺構実測図)	56
第30図	郷崎遺跡概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58
第31図	小四王原A遺跡概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第32図	下柳A遺跡概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第33図	下柳 A 遺跡遺構配置図····································	63
	下柳 A 遺跡住居跡 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	64
第35図	↑	
第36図	小川内遺跡僛妛凶····································	
第37図		
第38図	小川内遺跡住居跡······· 大浦 C 遺跡概要図······	71
第39図	大浦 C 遺跡遺構配置図(1)····································	73
第40図	大浦C遺跡遺構配置図(1)	
第41図	大浦C遺跡遺構配直図(2)	
第42図	滕島城跡俄安凶····································	78
第43図	藤島城跡: 這構配直凶:	79
第44図		
445区	(十 / T / T)	97

図版目次

図版 1	県農林関係遺跡(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
図版 2	県農林関係遺跡(2)	8
図版 3	県農林関係遺跡(3)	6
図版 4	一般国道改良事業関係	10
図版 5	一般国道改良事業関係	11
図版 6	県道建設・改良事業関係遺跡(1)	14
図版 7	県道建設・改良事業関係遺跡(2)	15
図版 8	県道建設・改良事業関係遺跡(3)	16
図版 9	県道建設・改良事業関係遺跡(4)	17
図版10	砂防関係遺跡	17
図版11	国営農地開発関係遺跡	17
図版12	西ノ川遺跡	10
図版13	宮の前遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
図版14	家根合遺跡	25
図版15	嶽の腰遺跡	27
図版16	月岡台の倉楯跡	20
図版17	横岫楯跡·····	31
図版18	水沢館跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
図版19	石倉館跡	35
図版20	岡村遺跡	37
図版21	清水脇 2 遺跡	30
図版22	廻り屋遺跡	1
図版23	植木場一遺跡	
図版24	弓張平〇遺跡	15
図版25	河原田遺跡	43
図版26	上谷地 b 遺跡	10
図版27	ソリメ A 遺跡······	52
図版28	高瀬川地区立ち会い調査	
図版29	鄉崎遺跡	50
図版30	小四王原A遺跡·····	61
図版31	下柳A遺跡(1)	66
図版32	下柳A遺跡(2)	67
図版33	小川内遺跡(1)	71
図版34	小川内遺跡(1) 小川内遺跡(2) 小川内遺跡(3)	79
図版35	小川内遺跡(3)	72
図版36	大浦C遺跡	77
図版37	大浦 C 遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	01
図版38	生石 2 遺跡	91

Ⅰ 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成6年度以降に実施予定となる開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地 (遺跡)の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との 調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、前年度、あるいは今年 度の調査結果に基づき、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も実施した。調 査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1)A調查(現地確認調查·表面踏查)

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係 を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2)B調査(試掘調査)

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深 さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査(記録保存のための発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4)立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この 調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

(5)埋蔵文化財包蔵地基礎調査

「山形県遺跡地図」(昭和53年版)に登録された遺跡、及びその後に発見・登録された遺跡の内容の補筆を行い、合わせて、遺跡の有無を確認し、将来の各種開発計画に備えることを目的とする調査。調査方法は表面踏査である。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年 $6\sim7$ 月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7 月中旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討している。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成 5 年 4 月から平成 6 年 1 月まで表 1 の工程で、表 1 に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡は11 章に示した。

表一1 平成5年度分布調査遺跡一覧

	事業名	市米440万万)	ij	周査	区分	分
	事業名	事業地区名	遺跡名	Α	В	С	立会い
1	県 営 ほ 場 整 備 事 業	下川地区	西ノ川遺跡		0		
	"	富並地区	宮の前遺跡		0		
	"	玉 野 地 区	ソリメA遺跡				0
	"	高瀬川地区	野 瀬 遺 跡				0
	"	//	田中遺跡				0
))	"	地蔵田遺跡				0
))	1)	上山崎遺跡				0
2	総 合 整 備 事 業	堰場地区	堰 場 遺 跡	0	0		
3	ため池等整備事業	玉川第2ため池	小出沢A・B・C遺跡	0			
4	農村基盤整備総合パイロット事業	刈 穂 地 区	郷 崎 遺 跡				0
5	一般農道整備事業	長瀞西部2期	八反遺跡	0			
	"	"	長瀞本楯遺跡	0			
,	"	余目南部2期	家根合遺跡		0		
6	広域農道整備事業	村山東部地区	渡戸遺跡	\circ			
))	//	荒井原窯跡	0			
7	農免農道整備事業	大 倉 地 区	白山堂遺跡	\bigcirc			
))	"	矢 島 遺 跡		0		
))	米沢南部3期	下原a遺跡		0		
8	ふるさと農道緊急整備事業	二井宿地区	鱒ケ越戸洞穴遺跡	\circ			
))	"	志 田 館 跡	\circ			
	"	楢 橋 地 区	楢 橋 楯 跡	\circ			
9	農業公社牧場設置事業	高岡地区	小四王原A遺跡	\circ	0		0
	畜産試験場芦沢放牧場整備事業	芦沢地区	南野B遺跡				0
10	国営鳥海南麓地区農地開発事業	嶽の腰(1)工区	嶽の腰5遺跡		0		
	国営鳥海南麓地区農地開発事業	小倉山工区	小倉山遺跡			0	
11	東北横断自動車道酒田線建設	寒河江月山間	月岡台の倉楯跡		0		
))	"	横 岫 楯 跡		0		
))	"	水沢館跡		0		
))))	石 倉 館 跡		0		
))	朝日酒田間	岡村遺跡				0
12	一般国道47号新庄南バイパス		外久保遺跡		0		
	一般国道47号新庄南バイパス		新町後遺跡		0		
	一般国道112号白岩バイパス		富沢I遺跡				0
	一般国道13号山形北バイパス		清水脇2遺跡		0		
13	国 道 287 号 道 路 改 良		廻り屋遺跡		0		
	国道345号道路改良		徳田山遺跡		0		
	主要地方道山形上山線		天神山遺跡	0			
	主要地方道山形天童線		下柳A遺跡		0		0

	事業名	事業地区名	遺跡名	Ħ	周査	区分	子
	ず 木 石	事 未 地 囚 石	息 奶 石	A	В	С	立会い
13	主要地方道大江西川線		梨の木原遺跡		0		
	主要地方道大江西川線		滝ノ沢遺跡		0		
	一般県道大久保楯岡停車場線		八反稲干原遺跡		0		
	一般県道芦沢大石田停車場線		鷹の巣館跡		0		
	一般県道砂小沢小又釜淵停車場線		小川内遺跡		0		
	一般県道綱木西米沢停車場線交通安全施設		吹屋敷遺跡	0			
	一般県道綱木西米沢停車場線交通安全施設		宝殿神社遺跡	0			
	一般県道南陽川西線		植木場一遺跡		0		
	一般県道米沢浅川高畠まちづくり総合事業		大浦C遺跡		0		
	一般県道金谷置賜停車場線		金谷館跡		0		
	一般県道綱木西米沢停車場線交通安全施設		大代原遺跡		0		
14	耳堂川荒廃砂防夕砂防工事	小山沢地区	中 丸 遺 跡		0		
	岩ケ沢川荒廃砂防工事	西根地区	岩ケ山遺跡		0		
15	都市計画公園整備事業	弓張平公園	弓張平〇遺跡		0		
16	住宅団地分譲事業	今塚地区	河原田遺跡		0		
17	産振校舎新築・グランド工事	米沢工業高校	上谷地b遺跡		0		
	県立高等学校自転車置場設置工事	庄内農業高校	藤島城跡				0
18	酒田警察署東酒田警察官駐在所		生石2遺跡				0

表一2 調査工程表

	調査		平		成		5		年		平成6年
	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月
	A		_		_	-	_		_	_	
平成 5 年度以降 農林土木事業他	В	_									_
	C 立会い				_	_			_		
国営農地開発事業	В										
鳥海南麓地区	С									_	
東北横断自動車道 酒 田 線 建 設	В		_								
報告書作成											

II 調査の概要

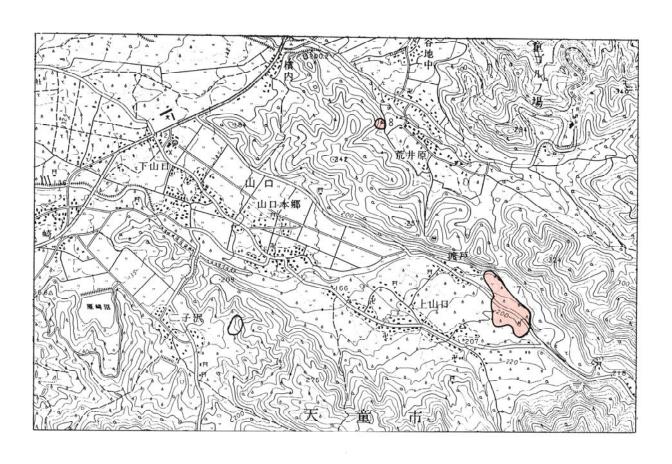
1 調査遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

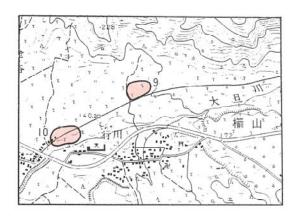
No.	種 別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	散布地	堰場場	米沢市大字川井字道下	奈良時代 平安時代 中 世	平 地 (235m)	水 田
2	包蔵地	亦 览 蒗 A	東田川郡羽黒町大字手向字小出沢	縄文時代	台 地 (140m)	山林
3	包蔵地	赤 览 菀 B	東田川郡羽黒町大字手向字小出沢	縄文時代	台 地 (150m)	山林
4	散布地	苏 览 蒙 C	東田川郡羽黒町大字手向字小 出沢	縄文時代	台 地 (135m)	畑 地
5	散布地	八 反	東根市大字長瀞字株川	平安時代	自然堤防 (82m)	畑地果樹園
6	城館跡	袋 静 本 楯	東根市大字長瀞字本楯	中 世	平 地 (80m)	畑 果樹園 水
7	散布地	渡	天童市大字山口字坊所	縄文時代	段 丘 (185m)	畑 地果樹園
8	窯跡	荒井 原 鰈 跡	天童市大字荒井原字荒井原	平安時代	山 麓 (183m)	果樹園
9	散布地	哲 前 堂	村山市大字林崎字大尻皿	縄文時代 奈良時代	段 丘 (145m)	畑 地果樹園
10	集落跡	关 島	村山市大字擶山字手塚森	縄文時代 (早〜 前期)	段 丘 (132m)	宅 地畑 地
11	散布地	卡 蒝 a	米沢市大字三沢字中瀬戸	縄文時代 (前期)	段 丘 (279m)	水宅畑地地
12	住居跡	鱒ヶ越戸洞穴	東置賜郡高畠町大字安久津字 鱒ヶ越戸	縄文時代 (中期)	山 腹 (332m)	山 林
13	城館跡	志 哲 館	東置賜郡高畠町大字二井宿	中 世	山 〔371m〕	山 林
14	城館跡	樽 橋 楯	飽海郡平田町大字樽橋	中 世	丘 陵 (96m)	山 林 樹 地

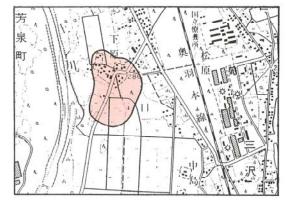
遺跡 概要	出土遺物	備考
米沢駅北東約3kmに位置し、馬橋川右岸の自然堤防上に立地する。東西370m・南北1,100m の範囲である。過去にほ場整備実施済。		「米沢市遺跡地図」掲載。No.342(昭和61年度)
羽黒第一小学校の南西約1.1kmに位置する。かっての開墾時に縄文土器、石器が出土した。現在は杉林となっており、遺物は未確認。		No.1805 平成2年度県教委試掘 調査実施
小出沢A遺跡の南東200mに位置する。東西60 m・南北90mの範囲と考えられる。かつての開 墾時に遺物が出土した。遺物は今回未確認。		№1806 平成 2 年度県教委試掘 調査実施
小出沢A遺跡の北西約200mに位置する。東西 50m・南北100mの範囲と考えられる。畑地内で 縄文土器片 2 点を採取した。	縄文土器片	平成 4 年度登録
JR東根駅の北西4kmの自然堤防上に立地する。範囲は東西150m・南北560m、西緩斜面に 土器片が散布。以前、斜面下で人骨出土。		N₀723 平成 5 年度位置訂正
JR東根駅から北西3.2kmに位置する。東辺部 に堀跡が明瞭に遺存している。西半部は過去の 洪水で破壊か。範囲は東西250m・南北320m。		No.722
JR天童駅の北東約6km、押切川により形成された左岸の段丘上に立地する。東西200m・南北500mの範囲。遺物は今回未確認。		No.335
JR天童駅の北東約6kmに位置し、南向き山 麓緩斜面に立地する。東西・南北とも30mの範 囲と考えられる。ブドウ畑造成で一部破壊。	須恵器片	No.337
JR楯岡駅から北北東に3.5km、大旦川右岸の 段丘上に立地する。範囲は東西100m・南北150 m。畑地部分から剝片が採取された。	剝片	No.656
J R楯岡駅から北北東に3.2km、市道林崎線沿いに位置する。11箇所の試掘を実施。今回調査対象地区大半が粘土採取で撹乱されていた。	縄文土器片、剝片、凹石	No651 平成 5 年10月県教委試 掘調査実施
最上川右岸の段丘上に立地する。試掘坑・トレンチ調査の結果、今回対象とした部分では、 遺構・遺物は未検出。		米沢市No299 平成5年8月県教委試 掘調査実施
高畠町役場の北東約4.3kmの山腹に開口している洞穴。東西・南北30mの範囲である。遺物は今回未採取。		No.1266
二井宿峠・柏木峠からの分岐点部山頂に立地 する山城。尾根筋に曲輪が10段認められる。山 頂西側に低い土塁、山頂の主部に井戸跡がある。		平成 5 年度登録 県教委中世城館跡調査 中。
樽橋集落の北東500mの丘陵上に位置すると 考えられるが、現在楯跡は特定できない。戦前 戦後の石油開発で旧地形が不明となっている。		平成 5 年度登録 県教委中世城館跡調査 中。(参考•筆濃余里)

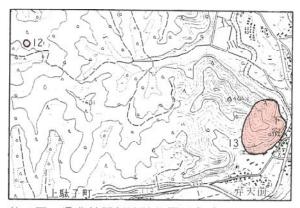


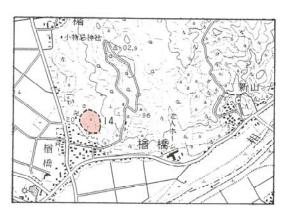


第 | 図 県農林事業関係遺跡位置図(|)





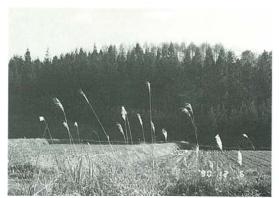




第2図 県農林関係遺跡位置図(2)



堰場遺跡近景 (南から)



小出沢 A 遺跡遠景 (北から)



小出沢 B遺跡遠景 (北西から)



小出沢 C 遺跡近景 (南西から)

図版Ⅰ 県農林関係遺跡(Ⅰ)



小出沢遺跡採取遺物



八反遺跡近景 (南北から)



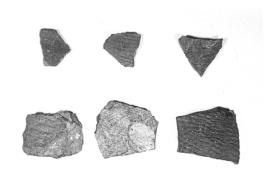
長瀞本楯近景



渡戸遺跡近景(南西より)



荒井原窯遺跡近景(南東から)



荒井原窯跡採取遺物

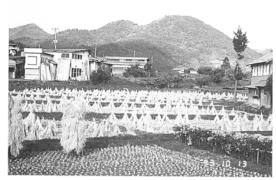


白山堂遺跡近景(南西から)



白山堂遺跡採取遺物

図版2 県農林関係遺跡(2)



矢島遺跡近景 (南西から)



矢島遺跡出土遺物



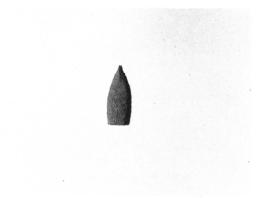
下原 a 遺跡近景 (西から)



下原 a 遺跡出土遺物



鱒ヶ越戸洞穴 (南西から)



鰌ヶ越戸洞穴採集遺物



志田館石垣(東から)

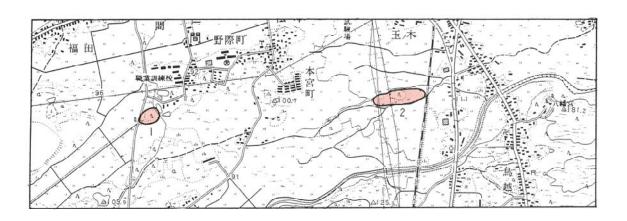


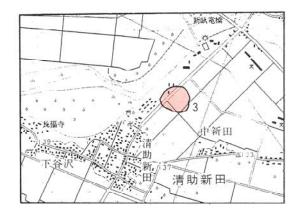
楢橋楯跡近景(南から)

図版3 県農林関係遺跡(3)

(2) 一般国道建設·改良事業関係遺跡

No.	種 別	遺	跡	名	所	在	地	時	期	立	地	地	目
1	包蔵地	外	久	保	新庄市大学	2仁間字研	幾の沢	(早	時代	扇 壮(87	犬 地 m)	水畑山	田 地 林 地
2	散布地	新	まち	後	新庄市大字 宮後	产鳥越字 線	新町後・本	縄文	時代	段 (10	丘 m)	水畑	田地林
3	集落跡	富	ぎわ	I	寒河江市大 107-1外	(字清水)	新田字富沢	縄文平安	時代	段 (130	丘)m)	果畑水	樹 園地田





第3図 一般国道改良事業関係遺跡位置図



外久保遺跡近景

図版 4 一般国道改良事業関係

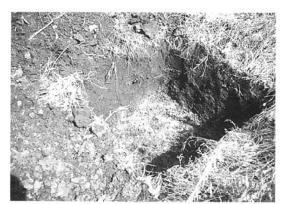
(3) 県道建設・改良事業関係遺跡

No.	種別	遺	跡	名	所	在	地	時	期	立	地	地	. 目
1	散布地	徳	# H	[*] ≉ Ц	飽海郡松山	町大字征	恵田字丸橋	縄文	時代	丘 (25	陵 m)	水果荒	持地
2	山岳祭 祀 跡	关	神	** Ц	山形市大字	2松原		古墳	時代	丘 (132 17	陵 ~ 7m)	山果	材園
3	集落跡	片	柳	A	山形市大字	*青柳字_	上柳	古墳中	時代世	自然 (107	堤防 m)	水道宅	路地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備考
JR新庄駅の南西約3kmに位置し、新田川の 扇状地に立地する。今回の試掘調査では、遺構・ 遺物は未検出である。		昭和63年度登録 平成3年4月・10月 平成5年9月試掘等
新庄市街地南側、玉ノ木地区南0.5km、JR奥 羽本線西側に位置する。試掘調査では、遺構・ 遺物は今回は未検出である。		昭和56年度登録 平成 4 年11月・平成 5 年 8 月試掘実施
J R左沢線高松駅北西1.4km。計画路線内の果 樹移植に伴う立会い調査を実施。移植時には遺 構・遺物は未確認。		昭和62年度登録 平成 5 年度(助埋文セン ター調査実施



新町後遺跡近景(東から)



新町後遺跡TP土層断面



富沢 I 遺跡立会い状況

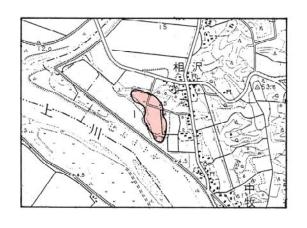


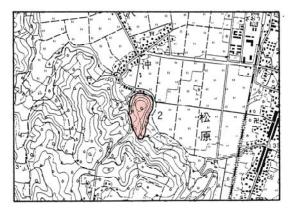
富沢Ⅰ遺跡近景(西から)

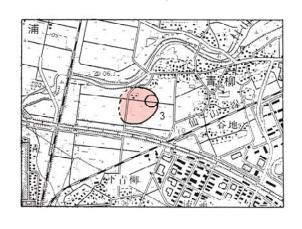
図版 5	一般国道改良事業関係

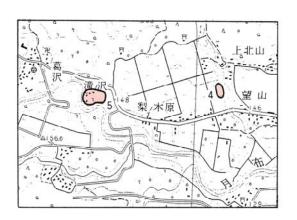
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備考
中牧田地区の南西約0.3km、最上川右岸の小丘 陵に立地する。昭和30年代に開墾で地山まで大 半が削平されている。遺構・遺物未確認。		No.2286 平成 5 年11月県教委 試掘調査実施
津金沢地区南側の丘陵上に東西150m・南北 250mの範囲で位置する。東裾部には巨石も認め られる。		No.73
下柳地区北側仙山線と高瀬川の間に位置する。 従来の下柳A遺跡の範囲を広く把えた。高瀬川 寄りで道路工事中に住居跡を検出した。	上師器・珠州系陶器	No.152 平成5年7月県教委 立会い調査実施

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
4	包蔵地	梨ノ木原	西村山郡大江町大字本郷字梨 ノ木原	縄文時代	段 丘 (147m)	畑地
5	散布地	滝ノ説	西村山郡大江町大字本郷字下 夕乙	縄文時代	段 丘 (132m)	畑 地
6	包蔵地	於 沒 籍 毕 朦	村山市大字河島元塩川字八反 稲干原	縄文時代 平安時代	平 地 (80m)	畑地荒地
7	城館跡	鷹の巣楯跡	北村山郡大石田町大字鷹の巣	中 世	段 (80m)	畑地林
8	散布地	吹 屋 敷	米沢市赤芝町字古屋敷	縄文時代	段 丘 (300m)	宅 地畑 地
9	散布地	宝殿神社	米沢市大字簗沢字殿原	縄文時代	段 丘 (305m)	境 内墓 地山林·宅地
10	散布地城館跡	金谷楯跡	米沢市万世町金谷	縄文時代中 世	段 〔260m〕	水山公園
11	包蔵地	大 代 原	米沢市大字簗沢字大代原	縄文時代	段 丘 (317m)	学校敷地



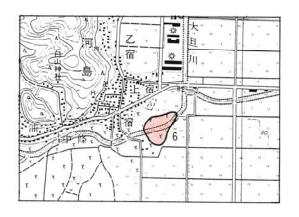


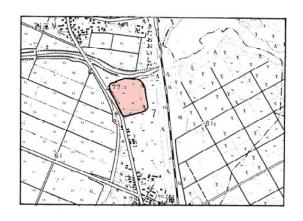


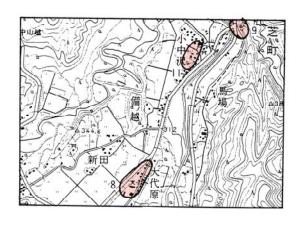


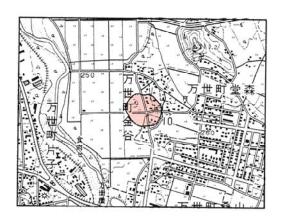
第4図 県道建設・改良事業関係遺跡位置図(1)

遺跡概要	出 土 遺 物	備考
月布川左岸の段丘上に立地する。範囲は東西 10m・南北70m。今回は道路予定地部分に 3 本 のトレンチを設定。剝片が出土した。	剝片(トレンチ1点)表採4 点	平成4年度登録 平成5年4月県教委 試掘調査実施
月布片左岸の段丘上に立地する。範囲は当初 東西180m・南北170mと考えられたが、道路予 定部分の試掘の結果、80×35mの範囲となる。		平成4年度登録 平成5年4月県教委 試掘調査実施
大旦川左岸、河島橋東方150mに位置する。今 回は、道路予定部分に10箇所試掘区を設定。調 査の結果、遺構・遺物は未検出。		平成元年度登録 平成5年9月県教委 試掘調査実施
野尻川右岸、海谷地区北側約500mに位置する。今回は、道路予定部分(楯西端部)に、8箇所 試掘区を設定。溝状遺構が部分的に検出された。		No.843 平成5年9月県教委 試掘調査実施
三沢東部小学校の北北東約1.4km、綱木・小野 川への分岐点に位置する。東西90m・南北100m の範囲、畑地に剝片が散布している。	剝片	米沢市№153
三沢東部小学校の北約1km、大樽川左岸の段 丘上に立地する。範囲は東西100m・南北190m、 かつて境内と南側宅地で剝片を採取。		米沢市No.194
JR米沢駅から南東に約1.8km、110m四方の 範囲となる。70・65・35mのトレンチ調査の結 果、遺構・遺物は未検出。		米沢市 a -61 平成 5 年11月県教委 試掘調査実施
三沢東部小学校敷地を中心とする東西100m 南北280mの範囲。道路予定地に 9 箇所のトレン チ・試掘区設定。遺構は未検出。	石器(篦状石器 2 点)剝片	米沢市No.168 平成5年9月県教委 試掘調査実施









第5図 県道建設・改良事業関係遺跡位置図(2)



徳田山遺跡近景(東から)



徳田山遺跡TP2土層断面



天神山遺跡近景(東から)



下柳A遺跡近景(北から)



梨ノ木原遺跡近景



梨ノ木原遺跡出土遺物



滝ノ沢遺跡近景 (東から)



滝ノ沢遺跡出土遺物

図版 6 県道建設・改良事業関係遺跡(1)



八反稲干原遺跡近景(西から)



八反稲干原遺跡TP2土層断面



鷹の巣楯跡近景(南から)



鷹の巣楯跡TP5土層断面



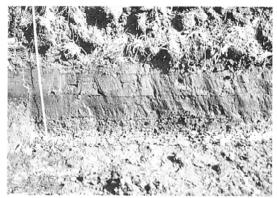
吹屋敷遺跡近景 (北から)



宝殿神社遺跡近景(北東から)



金谷楯跡近景



金谷楯跡TT土層断面

図版7 県道建設・改良事業関係遺跡(2)







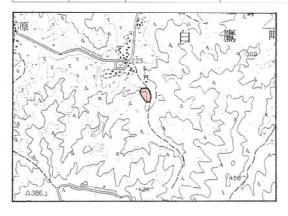
大代原遺跡近景

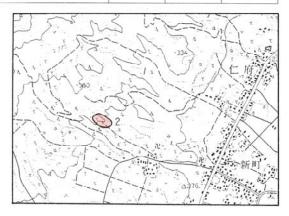
金谷楯跡出土遺物

図版8 県道建設・改良事業関係遺跡(3)

(4) 砂防関係遺跡地名表

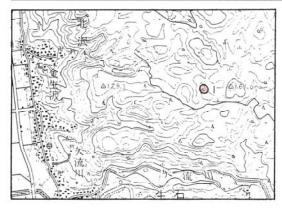
No.	種別	遺	跡	名	所	在	地	時	期	立	地	地	目
1	散布地	in the		丸	西置賜郡 中丸	白鷹町大学	字小山沢字	平安	時代	山 (11:	腹 9m)	畑	均
2	散布地	岩	がケ	ф# М	長井市大学	字草岡字岩	当ヶ沢	縄文	時代	段 (29)	丘 0m)	畑草	均均





(5) 国営農地開発事業(鳥海南麓地区)

No.	種別	遺	跡	名	所	在	地	時	期	立	地	地	目
1	散布地	小	倉	** ∐	酒田市大	字北沢字原	舊尾山	弥生	時代時代	山 (200	腹 m)	山	林





小倉山遺跡近景 (南から)



大代原遺跡TP6土層断面

図版 9 県道建設·改良事業関係遺跡(4)





大代原遺跡出土遺物

遺 跡 概 要	出	土	遺	物	備	考
白鷹町小山沢地区から南へ約500m、耳堂川の 沢の左岸の平場に位置する。 7 箇所の試掘区を 設定。対象部分は畑地造成時削平されている。					平成5年4月 試掘調査実施	
長井市新町地区から西に約1km、岩ヶ沢川左 岸の緩傾面の段丘上に立地する。4箇所の試掘 区を設定。対象部分は畑地造成時開墾された。					平成5年9月 試掘調査実施	



中丸遺跡近景 (東から)



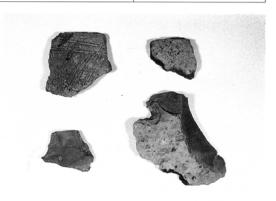
岩ヶ山遺跡近景 (東から)

凶版IU	妙的関係遺跡

遺	跡	概	要		出	土	遺	物	備	考
大平地区よ は、遺跡全域が を実施した。	J300m² に	ついて表	土を除っ	去し調査	弥生土器	片、:	剝片		平成3年度 平成5年12 立会い調査	月県教委



小倉山遺跡調査区



小倉山遺跡出土遺物

図版|| 国営農地開発遺跡

2 試掘調査の概要

(1) 造ノ川遺跡 (平成4年度登録・集落跡)

所 在 地 鶴岡市大字下川字西谷地

調査員長橋至

調 查 期 日 平成 5 年10月20 · 21日

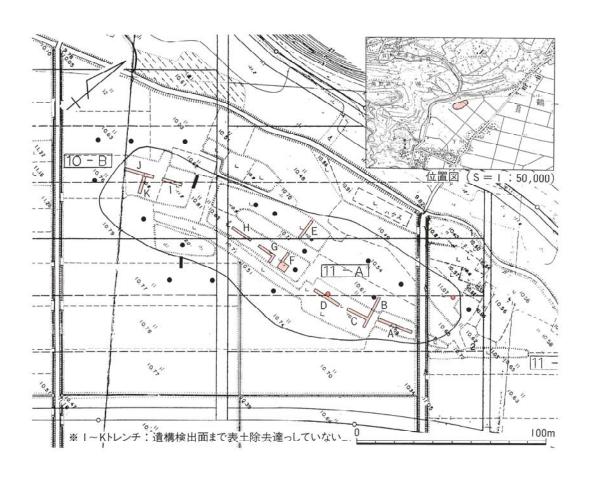
起 因 事業 県営は場整備事業 (下川地区)

遺跡環境 鶴岡市善宝寺北東約1kmに位置する。遺跡の中心部は畑地で、周辺部の水田 は過去に削平を受けている。遺跡の中心部で標高は約11mを測る。

試 掘 状 況 本遺跡については、平成 4 年度に試掘調査を実施している。今回は、さらに 密に22の試掘区および12本のトレンチ(重機使用・延長160m)を設定し、遺跡の状況の把握に努めた。

調査結果 畑地のほぼ全域で遺構が検出された。主な遺構は土壙15、竪穴住居跡と考えられる土色変化1、柱穴多数、溝状遺構等。遺物は、平安時代の赤焼土器・ 須恵器片が整理箱1箱程出土した。

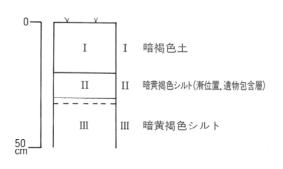
> 以上により、本遺跡は平安時代の集落跡が、周囲の削平された部分を除き、 良好に遺存しているものと判断される。



第7図 西ノ川遺跡概要図



遺跡近景 (北から)



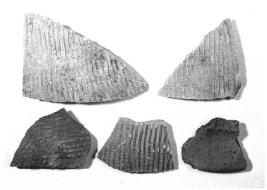
TTI 土層柱状図



Cトレンチ遺構検出状況



Fトレンチ遺構検出状況



出土遺物

図版12 西ノ川遺跡

(2) **宮の前遺跡**(遺跡番号615)

所 在 地 山形県村山市大字富並字宮の前

調 査 員 長橋 至・渋谷孝雄

調査期日 平成5年6月1~4日・18日・24~25日 8月10~11日

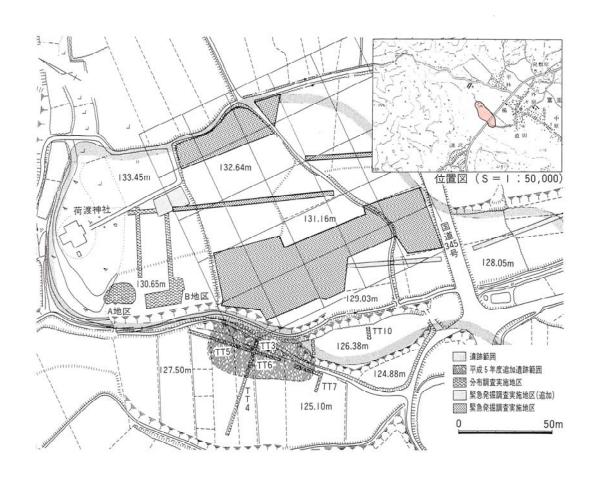
起 因 事業 県営ほ場整備事業(富並地区)

遺跡環境 富並川左岸の段丘上に立地する。平成5年度緊急調査実施。

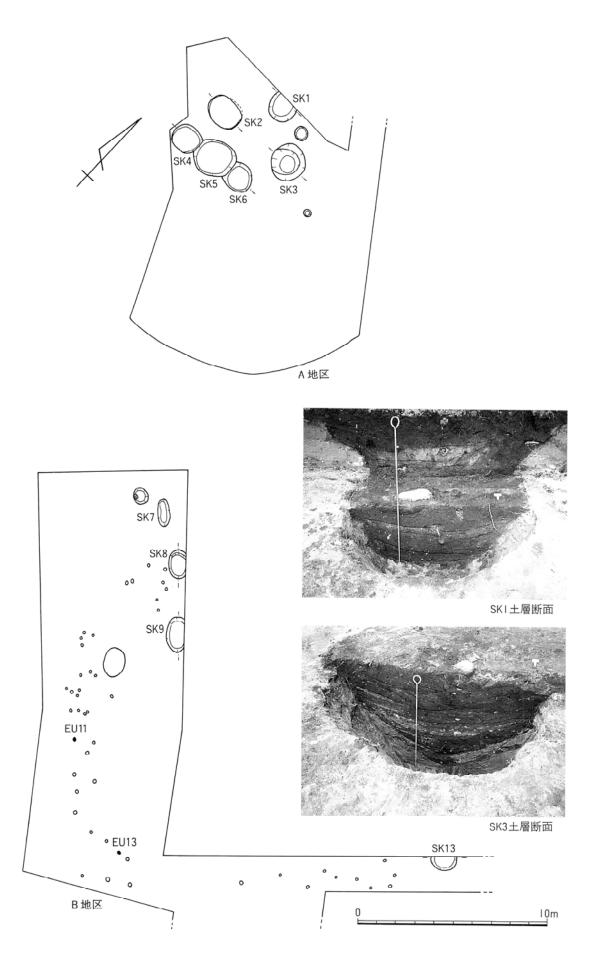
試掘調査 C地区(緊急発掘調査中に、当初遺跡外とした地点で大量の遺物が出土し、 遺跡範囲の再確認のため実施。遺跡中心部から投棄された遺物の捨て場の様 相を呈した。この地区は、盛り土となり、現状保存となった。)

立ち会調査 $A \cdot B$ 地区(水路および当初工事計画外の削平部分を対象に実施。遺跡の南西部端にあたる地点。遺構・遺物は中心部に比し希薄である。A地区で土壙 7 基・ピット 2 基、B地区で土壙 6 基・ピット 4 7基・埋設土器 2 基が検出された。土壙は、S K 1 \sim 3 \cdot 5 のような大形で自然堆積の状況を呈するもの、S K 8 \cdot 13 のようにやや小形で一時期に人為的に埋められた状況を呈するものなどのタイプがみられる。)

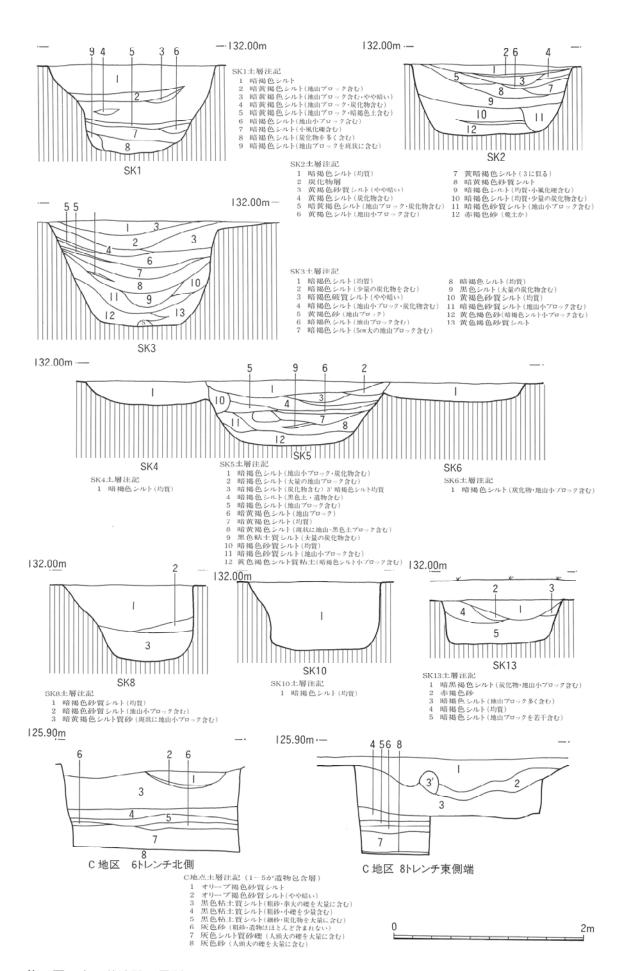
時期は、出土遺物から縄文時代晩期初頭から中葉と考えられる。



第8図 宮の前遺跡概要図



第9図 宮の前遺跡A地区



第10図 宮の前遺跡土層断面図



遺跡近景 (南から)



TT6土層断面



TT3土層断面



C地区完掘状況



C地区SK2完掘状況



出土遺物



出土遺物



出土遺物

図版13 宮の前遺跡

(3)家根合遺跡(遺跡番号1,706)

所 在 地 山形県東田川郡余目町大字家根合字五輪塚他

調査員長橋至

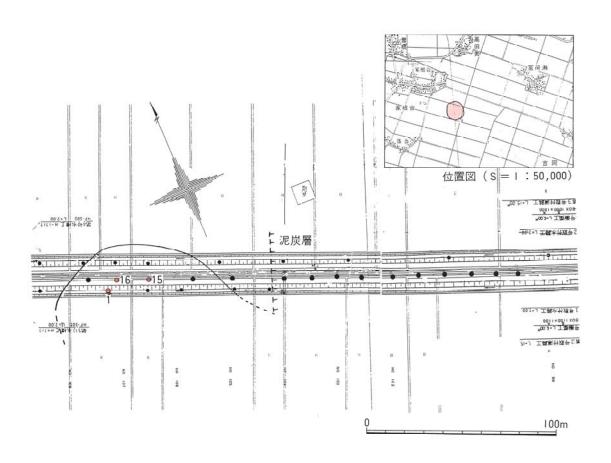
調 **查 期 日** 平成 5 年11月29 · 30日

起因事業 一般農道整備事業(余目南部2期)

遺跡環境 余目町家根合地区南東500m、京田川右岸の自然堤防上に立地する。遺跡全域が水田である。標高は5.7mを測る。遺跡の中心は、今回の調査対象地区の南側となる(昭和20年代の耕地整理時に平安時代の土器大量に出土)。

試 掘 状 況 本遺跡については、平成 4 年11月に同事業による試掘調査を実施している。 今回は昨年未調査部分を中心に試掘区を17設定し遺跡の状況を探った。

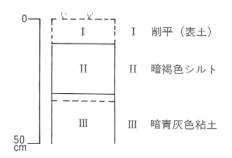
調査結果 調査対象地区は、本遺跡の最北端部にあたることが判明した。同時に、遺跡内計画路線東半部は1m以上の泥炭層の堆積が認められ、住居跡等の遺構の存在は考えられないことも明かとなった。西半部では、昨年の調査結果同様、比較的安定した地山が存在する。TP15からは縄文時代後期の所産と考えられる磨製石斧が1点出土した。平安時代の遺物は、TP16および周辺の水路等から採取された。



第11図 家根合遺跡概要図



遺跡近景(東から)



TPI5 土層柱状図



TP2土層断面



TP15土層断面



調査風景

図版14 家根合遺跡

(4) 嶽の腰 5 遺跡 (平成 5 年度新規)

所 在 地 山形県飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰

調 査 員 長橋 至・渋谷孝雄

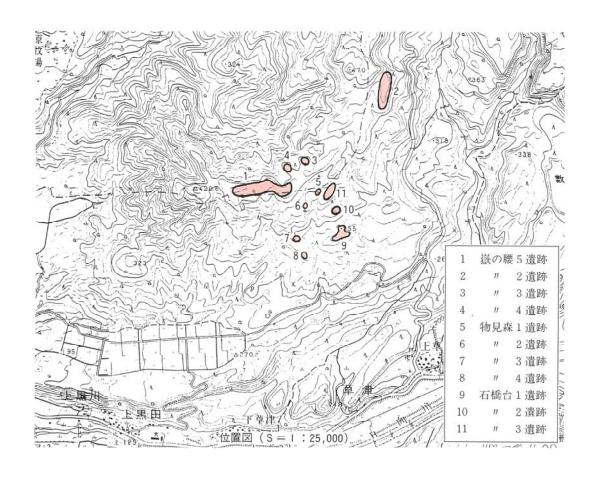
調査期日 平成5年5月11~14日・18~21日・25~28日

起 因 事業 国営農地開発事業鳥海南麓地区 (嶽の腰1工区)

遺跡環境 JR羽越本線遊佐駅の東方約9kmの山中、標高400~410mを測る台地上の平 坦部に立地する。周辺には嶽の腰2~4遺跡が点在している。2~4遺跡に ついては平成4年度新規登録であるが、さらに追加の調査を実施し遺跡範囲 の確認が必要である。

試 掘 状 況 嶽の腰 4 遺跡から南西へ約200m、東西400・南北100mの範囲の平坦部について試掘調査を実施した。試掘区は10~20mおきの126箇所である。

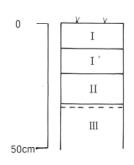
調査結果 対象とした平坦部では、柱穴・土壙・落とし穴等が検出された。しかし、全域で遺構が認められるわけではなく、また、地点が限定されて検出される状況でもない。樹木等により限定された調査のため、本遺跡についてはさらに、嶽の腰2~4同様に再度の試掘調査が必要である。なお、今回の調査についての詳細は、再調査の結果報告時に一括しておこなう。



第12図 嶽の腰遺跡概要図



遺跡近景(北から)



- I 暗褐色土
- I′ 暗褐色シルト
- II 暗褐色粘土質シルト
- III 黄褐色シルト



TP86落とし穴





TPI7ピット・土層断面



出土遺物

図版15 嶽の腰5遺跡

(5)月岡台の倉楯跡(平成4年度登録)

所 在 地 山形県西村山郡西川町大字月岡

調査員長橋至

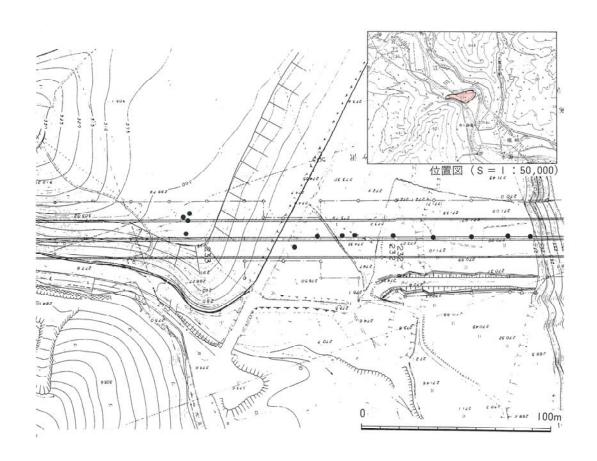
調査期日 平成5年11月9日

起 因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設工事(寒河江月山沢間)

遺跡環境 寒河江川右岸の丘陵に立地する。頂部に15m程の平場、頂部東側に100m、南側に曲輪状の小さい平場(今回の調査対象地区)がある。

調査状況 立木伐採後、試掘調査に入ったが、材が未搬出のため、丘陵上では試掘区は 4箇所に限定された。また、楯跡東側現水田部分については西川町教委の見 解として「根小屋」の可能性が示唆されたため、この区域にも9箇所の試掘 区を設定しその有無を調べた。

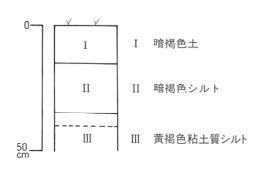
調査結果 丘陵上の試掘区では、遺構・遺物は未検出であった。なお、この地区については材の搬出後、再調査が必要である。「根小屋」とされた区域では、過去に個人による基盤整備が行われたとのことであった。それを裏付けるように地山の撹乱、切り土・盛り土が認められ、遺跡は確認されなかった。



第13図 月岡台の倉楯跡概要図



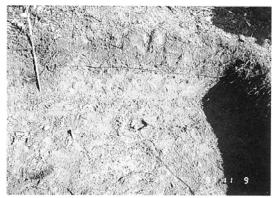
遺跡遠景 (東から)



TP3 土層柱状図



遺跡近景(南から)



TP2土層断面



TP10土層断面

図版16 月岡台の倉楯跡

(6)横岫楯跡(平成4年度登録)

所 在 地 山形県西村山郡西川町大字横岫

調査員長橋至

調 查 期 日 平成 5 年11月10·11日

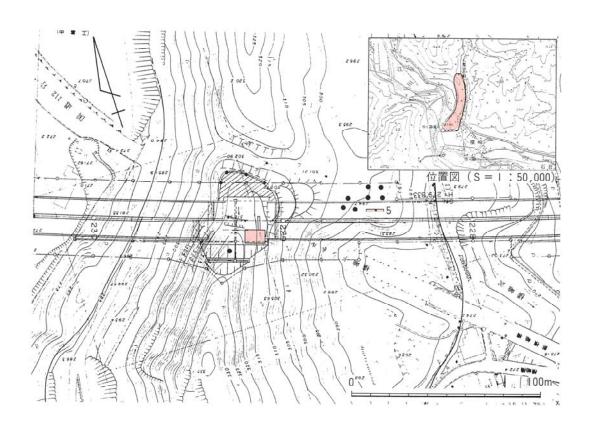
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (寒河江月山沢間)

遺跡環境 寒河江川左岸の丘陵に立地する。中心部は、過去の土取りで破壊されている。 旧六十里越え街道の番所跡(伝)の石組がみられる。

調査状況 立木伐採後、試掘調査に入ったが、曲輪の一部については材が未搬出のため 試掘はできなかった。路線内の頂部・番所跡・下段の平場について試掘区・ トレンチ11箇所設定した。

調査結果 旧番所跡では、 9×5 mの範囲で40個前後の大型の磔が規則的に配列されている。番所跡の位置する平坦部にはそれ以外の遺構は存在しないと考えられる。下段の平場は、現国道112号線横岫トンネルにより大半が削平されていいる。遺存した平場の南側 $\mathbf{TP5}$ で土壙が $\mathbf{1}$ 基検出された。

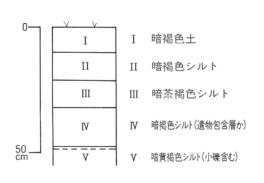
今回の調査対象区では、曲輪状の平場、旧六十里越え街道、旧番所跡が遺存 していることが明らかになった。



第14図 横岫楯跡概要図



遺跡遠景(南西から)



TP5 土層柱状図



遺跡近景(西から)



TP5検出土壙・土層断面



伝・番所跡礎石

図版I7 横岫楯跡

(7)水沢館跡 (平成4年度登録)

所 在 地 山形県西村山郡西川町大字水沢

調査員長橋至

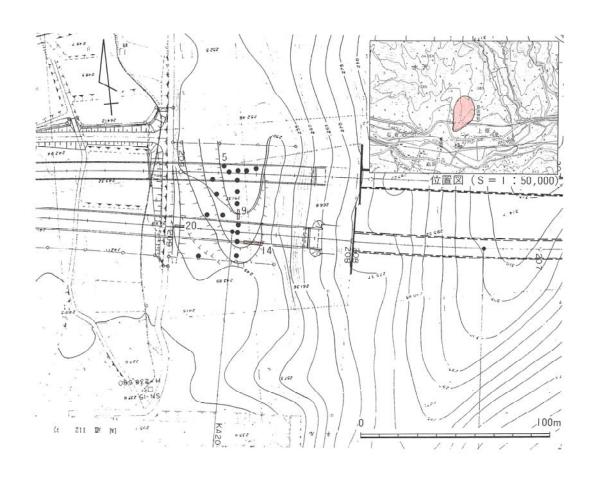
調 査 期 日 平成 5 年11月15・16日

起 因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (寒河江月山沢間)

遺跡環境 寒河江川左岸の丘陵に立地する。標高343~241m、館西側が地滑り地形で緩 斜面となり館跡の境界となる。本館跡については、県教委実施の中世城館跡 調査で詳しく取り上げられている。

調 査 状 況 高速道路用地内約3,000平米について、試掘区17、トレンチ3本を設定した。 曲輪・空堀・土塁等が良好に遺存している。

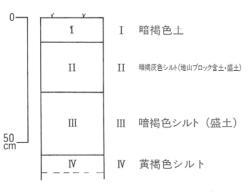
調査結果 調査対象地区内では、曲輪が3段、東・西側に空堀各1箇所、西側境界部分 に土塁状の盛り土が認められた。曲輪部分では、試掘の結果土色変化等の遺 構は今回は末検出、中世の遺物の出土も認められなかった。曲輪2段目西側 の一部で土止め用の石組が見られたが、館跡に直接関連するか検討を要する。 なお、今回の調査対象地区は、高速道のトンネル開口部から館跡内の西側部 分としている。



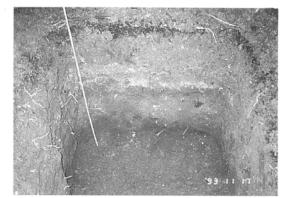
第15図 水沢館跡概要図



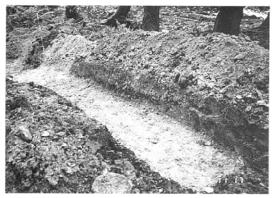
遺跡近景 (西から)



TP5 土層柱状図



TP5土層断面



TTI4土層断面



TT20土層断面

図版18 水沢館跡

(8)石倉館跡(平成4年度登録)

所 在 地 山形県西村山郡西川町大字石倉

調査員長橋至

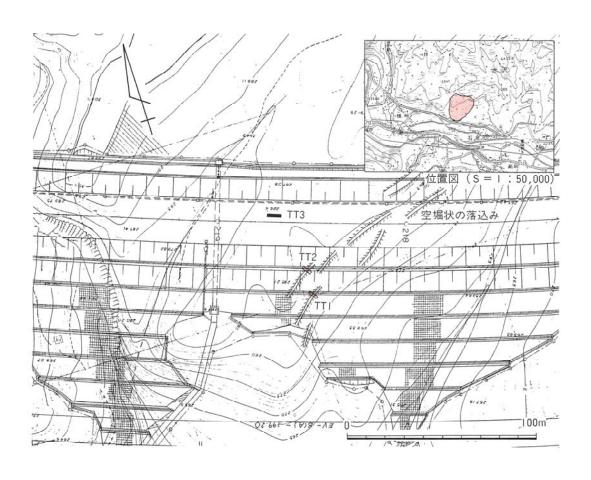
調査期日 平成5年11月11・12日

起 因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (寒河江月山沢間)

遺 跡 環 境 寒河江川左岸の丘陵に立地する。標高275~285m、東西130m・南北50mの範囲に等高線と平行に空堀状の落ち込みが長さ30m・幅2~4mで10箇所程認められる。

調査状況 空堀状の落ち込みのうち 2 箇所について落ち込みに直交する方向に 1×7 m のトレンチを設定し、試掘した。併せて、材の切り出し時に開削された土塁 状の高まり部について法面を削り土層の観察をおこなった。

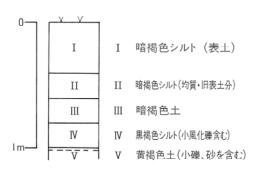
調査結果 空堀状の落ち込みは、底部に黒色土が、その上層に暗褐色土、さらにシルト質の暗褐色土が堆積しており、自然堆積の様相を呈している。空堀の下側の堆積土は山の礫で、空堀掘削後、盛り返したものとは考えられない。人工的な可能性はあるが、楯として周辺部を見た場合、曲輪等の施設が認められないため、縄張り図作成等でさらに検討を要するものと考えられる。



第16図 石倉館跡概要図



遺跡近景 (東から)



TTI 中央土層柱状図



TTI土層断面



TT2土層断面



TT3土層断面

図版19 石倉館跡

(9)**岡村遺跡**(昭和63年度登録)

所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字熊出字岡村

調 査 員 渋谷孝雄

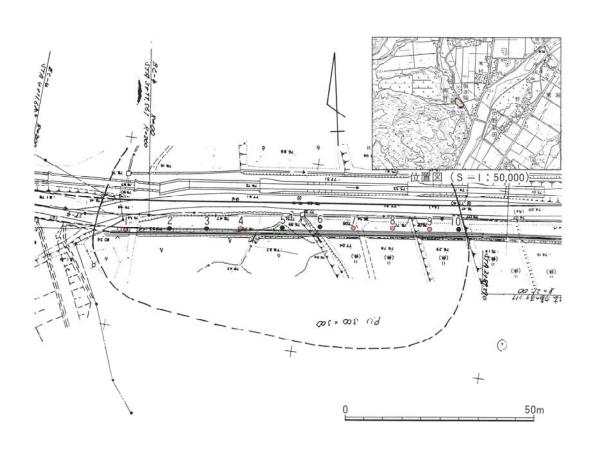
調査期日 平成5年5月25日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事櫛引工事区工事用道路建設

遺跡環境 遺跡は朝日村役場の北北東方約1.8kmに位置し、標高77mの小扇状地に立地する。昭和63年度の県教委の分布調査で発見登録された縄文時代の遺跡である。 現在の地目は山林や休耕田となっている。

調査状況 今回の調査は現道を約6 m拡幅して工事用道路とする事業計画との調整のために実施した。拡幅予定地内にほぼ10mおきに1×1 mの試掘坑を合わせて11箇所設定し地山までの掘り下げを行い、堆積状況や遺物包含層、遺構の有無の確認を行った。

調査結果 調査の結果、TP1、TP4、TP7、TP8、TP9の5箇所で縄文土器や剝片が1点から5点出土したが遺構の存在は確認できなかった。休耕田の部分は以前のほ場整備によって撹乱が著しく、部分的なものを含め1次的な包含層が残っている地区はTP4~9までの約60m弱と判断された。



第17図 岡村遺跡概要図



遺跡近景 (東から)

I:褐色粘土質シルト

II: 褐色礫混り砂質シルト

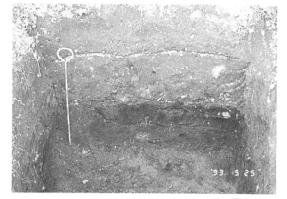
IIb: 褐色砂

Ⅲ:暗褐色粘土質シルト

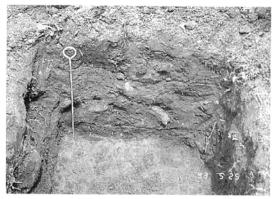
(包含層)

Ⅳ:灰褐色シルト質粘土(地山)





TPI土層断面



TP7土層断面



出土遺物

図版20 岡村遺跡

(10)**清水脇**2遺跡(平成4年度登録)

所 在 地 山形県村山市大字土生田字清水脇1791-4他

調査員長橋至

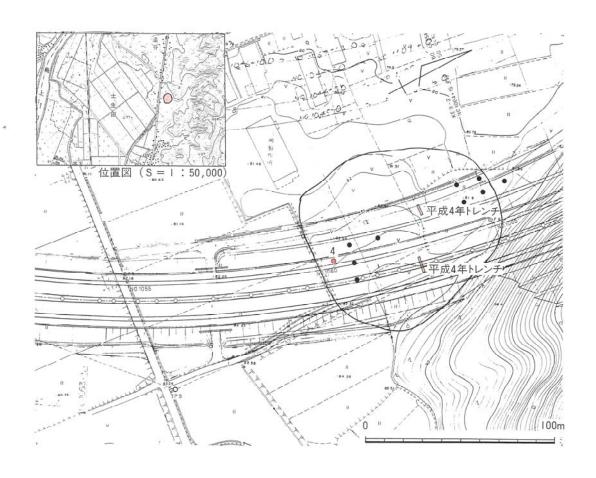
調査期日 平成5年12月22日

起因事業 国道13号山形北バイパス建設工事

遺跡環境 国道13号の尾花沢市と大石田町方面への分岐点から南東へ約250m、標高 82~84mの山麓部に立地する。平成4年度に県教委試掘調査実施(トレンチ 調査2カ所)。

試 掘 状 況 今回は、平成 4 年度の試掘調査に追加して新たに10箇所の試掘区を設定し遺跡の状況を探った。

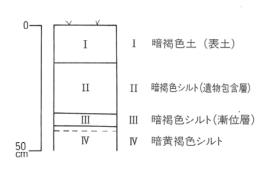
調査結果 TP4で径40cmの平面プランをもつ土壙が1基検出された。確認面は現地表から35cmの暗黄褐色土である。TP7以外では今回は明確な遺構は検出されなかった。遺跡中央部で平成4年度の調査時に縄文・平安時代の明確な遺構が検出されているため、中心部は遺跡中央部と考えられる。なお、今回の調査時は積雪1mを越える悪条件であったため、さらに綿密な試掘調査が再度必要である。



第18図 清水脇 2 遺跡概要図



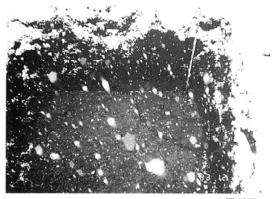
遺跡遠景(南から)



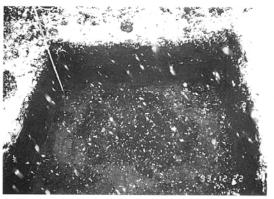
TP4 土層柱状図



調査風景



TP7土層断面



TP4遺構検出状況

図版21 清水脇2遺跡

(11) 廻り屋遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県西置賜郡白鷹町大字石那田字廻り屋

調 査 員 長橋 至

調查期日 平成5年10月6・7日

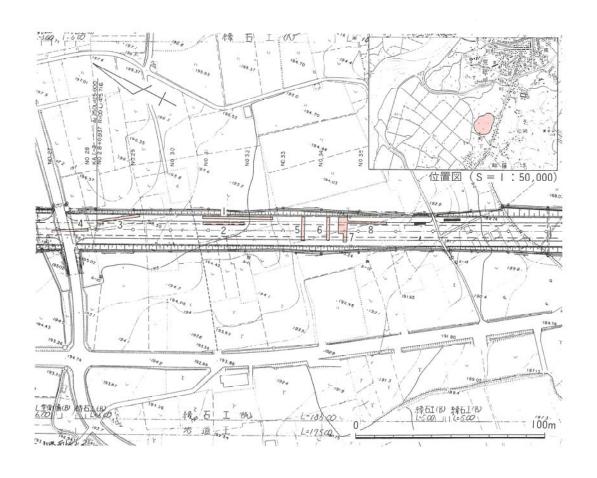
起因事業 国道 287線道路改良工事 (白鷹町畔藤地内)

遺跡環境 白鷹町町下地区から北西に約0.5km、最上川から東へ1kmの段丘状に立地する。遺跡範囲は東西 200m・南北 250m程で地目は水田、畑地となっている。 遺跡の道路用地内で一部表土の削平が行われている。

調査状況 用地内に10本のトレンチを設定、重機で表土を除去した。5~8トレンチは 表土の削平を受けた部分ですでに柱穴等の遺構が調査前の段階で一部確認が できた。

調査結果 1トレンチで古墳時代の遺物(完形品)が比較的まとまって出土した。3・4トレンチでは土壙、竪穴住居跡と考えられる土色変化が、6・7トレンチでは多数の柱穴の他、焼土が検出された。5トレンチ及び6・7トレンチの西側は地形的な落ち込みが観察された。

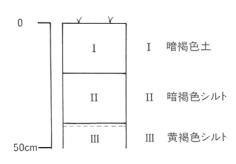
本遺跡は、古墳時代と平安時代の2時期が考えられる複合遺跡である。



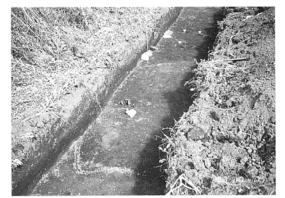
第19図 廻り屋遺跡概要図



遺跡近景(南から)



TT4 土層柱状図



TTI遺跡検出状況



TT6遺構検出状況



出土遺物

図版22 廻り屋遺跡

(12)**植木場一遺跡**(平成2年度登録)

所 在 地 山形県南陽市大字宮崎字植木場一・町屋敷一・二・地蔵堂他

調査員長橋至

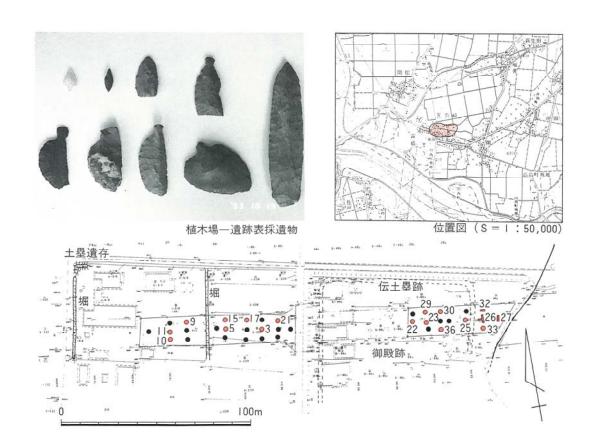
調 查 期 日 平成 5 年10月13·14日

起 因 事 業 一般県道南陽川西線道路改良(宮崎地区)

遺跡環境 遺跡は南陽市宮崎地区に含まれる。奈良・平安時代の遺跡として登録されたが、南陽市教育委員会の資料及び今回の調査で、さらに中世の館跡と江戸時代初期の上杉家鷹狩り時の休み所としての「御殿跡」と伝えられる場所が遺跡内に含まれることが明かとなった。さらに、地区民により縄文時代前期の石器が付近で表採されている。

調査状況 遺跡内の未買収地区を除く約2,000平米を対象に36箇所の試掘区・トレンチを 設定した。遺跡西側をA地区、東側の伝「御殿跡」をB地区と仮称する。

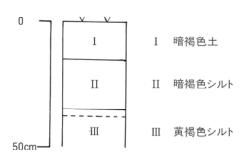
調査結果 A地区ではTP3・5・7~11・15・17・21で柱穴、土壙、平安時代の土器 片・縄文時代の石器剝片が出土。B地区ではTP24・28・31・34・35を除く 試掘区から縄文・平安・中世・近世の遺構・遺物が出土した。特に、「御殿跡」 では中・近世の遺物が多い傾向にある。



第20図 植木場一遺跡概要図



遺跡近景(東側・西から)



TP4 土層柱状図



遺跡近景(神社前・束から)



TPI5検出遺構



出土遺物

図版23 植木場一遺跡

(13)**弓張平〇遺跡**(平成4年度登録)

所 在 地 山形県西村山郡西川町大字志津字弓張平

調査員長橋至

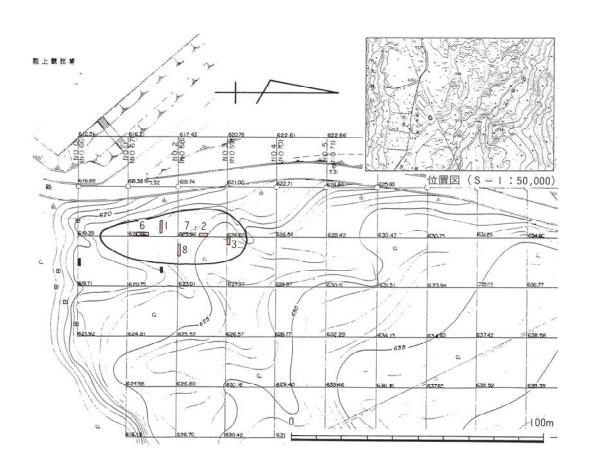
調査期日 平成5年9月28日~10月1日

起 因 事 業 都市公園整備事業 (弓張平公園)

遺跡環境 遺跡は弓張平公園内の陸上競技場すぐ東側の台地に立地し、地目は雑木林となっている。標高は623~626mを測る。平成4年度に試掘調査を実施しており、今回は範囲の確定を目的とした再調査である。

調 査 状 況 昨年度の1トレンチの完掘、および新たに6~8トレンチ3本を設定し、遺跡の状況を探った。トレンチはすべて手掘りである。

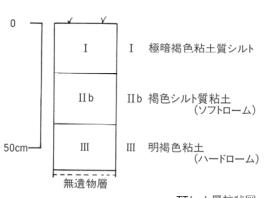
調査結果 1トレンチでは、昨年の遺物出土面のさらに下層から25点の石器砕・剝片が出土した。遺構は未検出である。新たに設定したトレンチは $1 \times 4 \sim 5$ mであるが、遺物は全体に希薄であり、1トレンチに見られるような集中域はなかった。いづれのトレンチでも石器砕・剝片 $1 \sim 2$ 点の出土であった。以上により、本遺跡は、昨年実施した試掘調査の結果とほぼ同じく、東西20m・南北60mの範囲と考えられる。



第21図 弓張平 0 遺跡概要図



遺跡近景 (南から)







TTI遺物出土状況



TT8土層断面



出土遺物

図版24 弓張平〇遺跡

(14) 河原茁遺跡 (平成4年度登録)

所 在 地 山形県山形市大字今塚字河原田

調査員長橋至

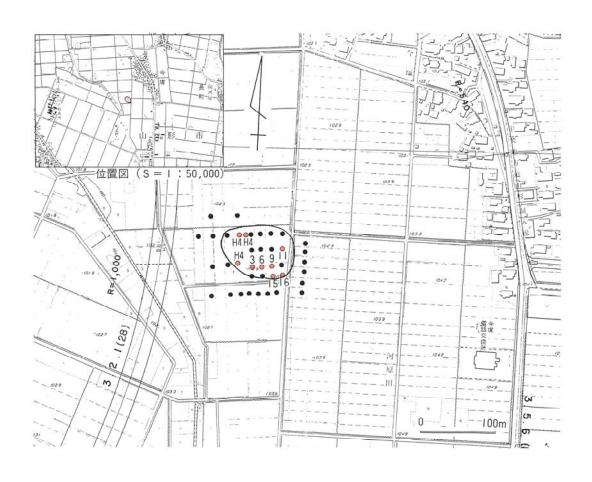
調査期日 平成5年4月22日

起因事業 住宅団地分譲事業(今塚地区)

遺跡環境 山形市今塚地区の南西300mの平地に所在する。地目は水田・畑地となっている。平成3年度に表面踏査により遺跡可能性地、平成4年度の試掘調査で新規遺跡として登録された。なお、平成5年度に、本遺跡の北200mに位置する「今塚遺跡」の緊急発掘調査が(財)山形県埋蔵文化財センターにより実施され、仁寿参年(西暦853年)六月三日銘の木簡が出土するなど、極めて貴重な成果が得られた。

調 査 状 況 昨年実施した試掘調査時に、未調整地区として調査から除外した部分を中心 に16箇所の試掘区を設定した。(図中H 4:平成 4 年度調査)

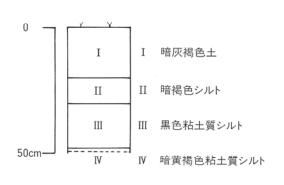
調査結果 調査対象地区の南側を中心に遺物が出土した。TP1では柱穴、TP3、16 等から弥生時代の土器片、さらに平安時代の須恵器片等が出土したTPもある。昨年度の調査成果と併せ、本遺跡は、今回調査対象とした区域を中心に東西100m・南北50mの範囲の弥生時代・平安時代の複合遺跡と考えられる。



第22図 河原田遺跡



遺跡近景(南から)



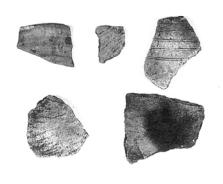
TPI 土層柱状図



TPI遺構検出状況



TP5土層断面



出土遺物

図版25 河原田遺跡

(14) **上谷地 b 遺跡** (米沢市遺跡地図 No.0268)

所 在 地 山形県米沢市大字上谷地538他

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成5年12月16日

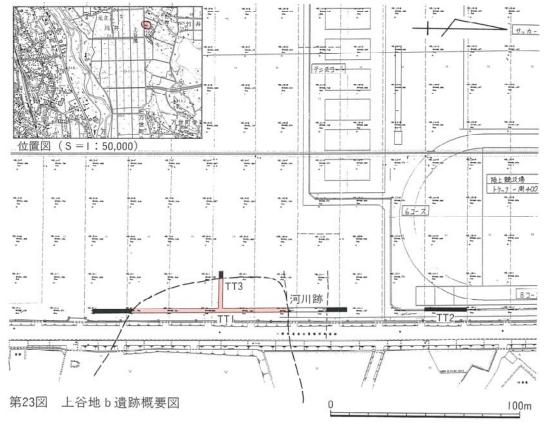
起 因 事業 県立米沢工業高等学校産振校舎新築工事及びグランド工事

遺跡環境 遺跡はJR米沢駅の東北東約2㎞に位置し、遺跡の中心部は旧羽黒川によって形成された河岸段丘上に立地する。小河川を挟んで同じ面の北側に野際遺跡があり、両遺跡とも縄文時代の遺物が散布している。

昭和56年に両遺跡の間の水田部に地権者が井戸の設置と暗渠設営工事を行ったところ、表土下2~5m付近から縄文時代後晩期の土器と丸木弓が出土したことで低湿地遺跡として注目されるようになった。

- 調 査 状 況 今回の調査は段丘上に中心がある上谷地 b 遺跡が段丘下の水田部まで延びているかどうかを確認するための調査で、段丘に近い用地内に $2 \times 135 \text{m}$ (T 1)、 $2 \times 22 \text{m}$ (T 3)の南北トレンチ、 $2 \times 20 \text{m}$ (T 2)の東西トレンチを設定して重機で地山までの掘り下げを行った。
- 調査結果 T1中央のIV層(青灰色粘土)中から縄文時代晩期大洞BC式の小形深鉢の 完形品が出土した他、縄文土器片、石匙等が出土し、同トレンチの北部で上 幅20m、深さ1.2mの旧河川が検出された。この旧河川からは遺物は検出され なかった。T2からは遺構・遺物とも未発見で、T3からはT1との交差部 分から西に12mの地点まで若干の縄文土器片が出土した。

以上から、下図に示した範囲まで縄文時代の包含層が分布すると考えられた。





遺跡近景

50 cm

I : 暗褐色砂混り粘土質シルト

II: 黒褐色粘土混り青灰色細砂

Ⅲ:黒褐色粘土

Ⅳ:青灰色粘土(包含層)

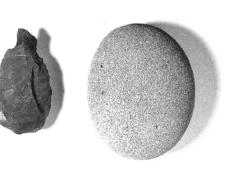




TP土層断面



出土遺物



出土遺物

図版26 上谷地 b 遺跡

3 記録保存調査・立会い調査の概要

(1)ソリメA遺跡(昭和57年度登録)

所 在 地 尾花沢市大字原田字ソリメ

調査員長橋至

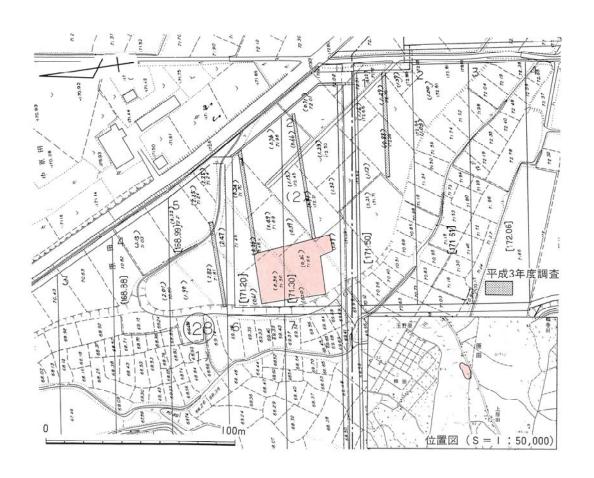
調査期日 平成5年6月10~17日

起 因 事 業 県営ほ場整備事業 (玉野第二地区)

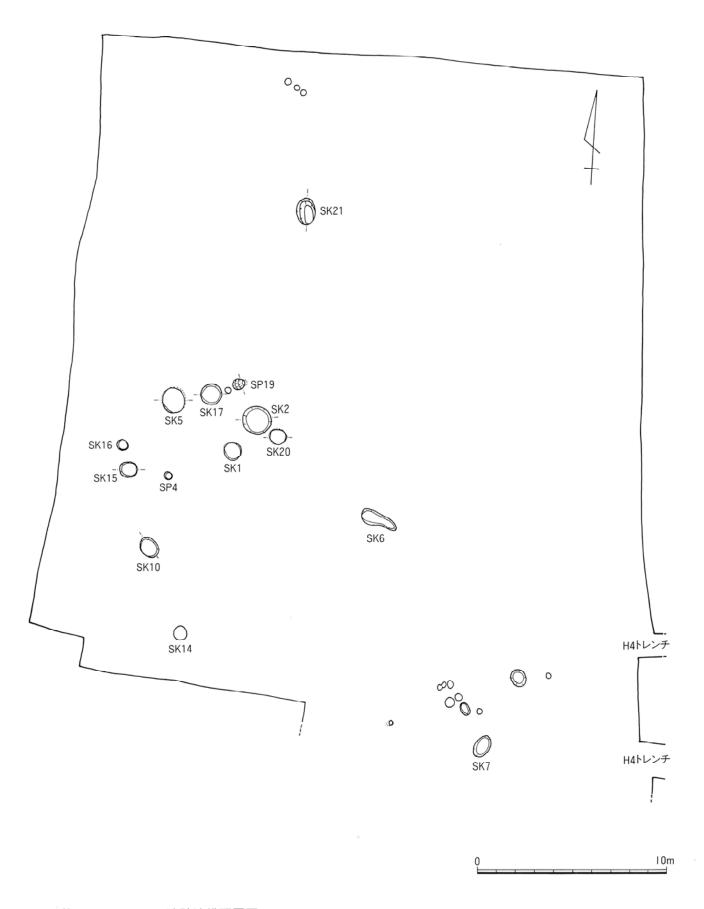
遺跡環境 中原田地区南側水田一帯、綱木川右岸の段丘上に立地する。遺跡範囲は東西 100m・南北200m程、標高は約170mを測る。

調査状況 本遺跡については、平成4年1月に4本のトレンチによる試掘調査を実施している。その結果、遺構の集中範囲が限られること、遺構の密度が希薄なことから、工事に先行しての立ち会い調査とした。調査区は、先の調査のデータを基に、中心部分と考えられる遺跡南側に約900平米の範囲で設定し重機で表土を除去した。

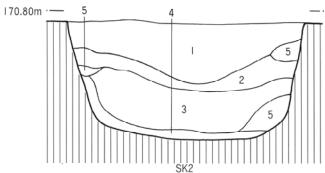
調査結果 土壙7基、柱穴10を検出。土壙はいづれも径100~150cm、壙底は平坦、やや オーバーハングする特徴を有する。柱穴は住居跡を構成する配置では検出さ れない。遺物は縄文時代前期の土器片70、凹石3、フレイク数片が出土した。



第24図 ソリメA遺跡概要図

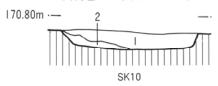


第25図 ソリメA遺跡遺構配置図



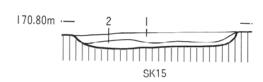
SK2土層注記

- 1 黒色砂質シルト(少量のパミス含む)
- 2 黒色粘土質シルト(地山小ブロック含む)
- 3 黒色シルト質砂 (斑状に地山小ブロック含む) 4 暗褐色砂質シルト(地山小ブロック含む)
- 5 黄褐色シルト(地山ブロック)



SK10土地注記

- 1 黒色シルト(1cm大のパミスを含む)
- 2 暗褐色砂質シルト(小量の炭化物を含む)



SK5土層注記

SK15土層注記

170.75m -- 2

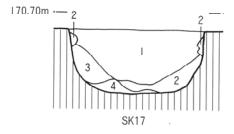
1 黒色シルト(1cm大のパミスを含む)

SK5

2 黄褐色シルト(地山ブロック)

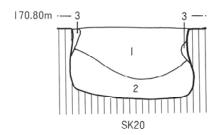
1 黒色砂質シルト(少量のパミス含む)

2 黄褐色砂質シルト(地山ブロック)



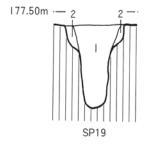
SK17土層注記

- 1 黒色シルト(1cm大のパミスを含む)
- 2 黄褐色砂質シルト(地山ブロック)
- 3 黒色シルト(1に比しバミスが少ない)
- 4 黒色シルト(大量の地山ブロックを含む)



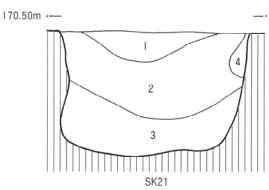
SK20土層注記

- 1 黒色シルト(1cm大のパミスを含む)
- 2 黒色砂質シルト(少量のパミス含む) 3 黄褐色シルト(オーバーハングの崩壊土)



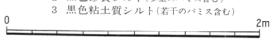
SK19土層注記

- 黒色砂質シルト(少量のパミス含む)
 暗褐色シルト(地山小ブロック含む)



SK21土層注記

- 1 黒色シルト(少量のパミス含む)
- 2 黒色砂質シルト(多量のパミス含む)



第26図 ソリメA遺跡遺構土層断面図



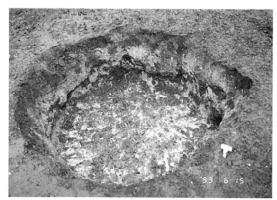
遺跡近景 (北から)



調査区完掘状況



SK2土層断面



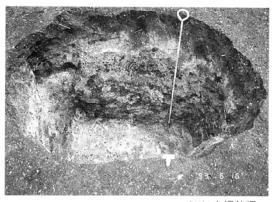
SK2完掘状況



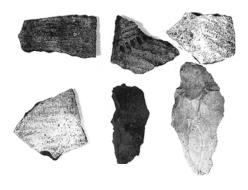
SPI9土層断面



SK20完掘状況



SK2I完掘状況



出土遺物

図版27 ソリメA遺跡

(2)県営ほ場整備事業高瀬川地区関係遺跡

遺 跡 名 上山崎遺跡(平成4年度登録)山形県飽海郡遊佐町大字当山字上山崎 市 中遺跡(平成4年度登録)山形県飽海郡遊佐町大字当山字田中 地蔵田遺跡(2,092平成4年範囲変更)山形県飽海郡遊佐町大字当山字上山崎 野瀬遺跡(平成元年度登録)山形県飽海郡遊佐町大字北目字野瀬・田屋敷

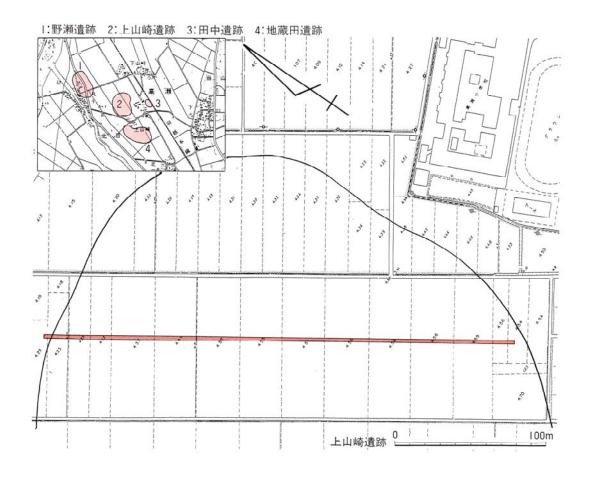
調 査 員 長橋 至・渋谷孝雄

調 查 期 日 平成 5 年 7 月27~30日 · 11月 4~5日

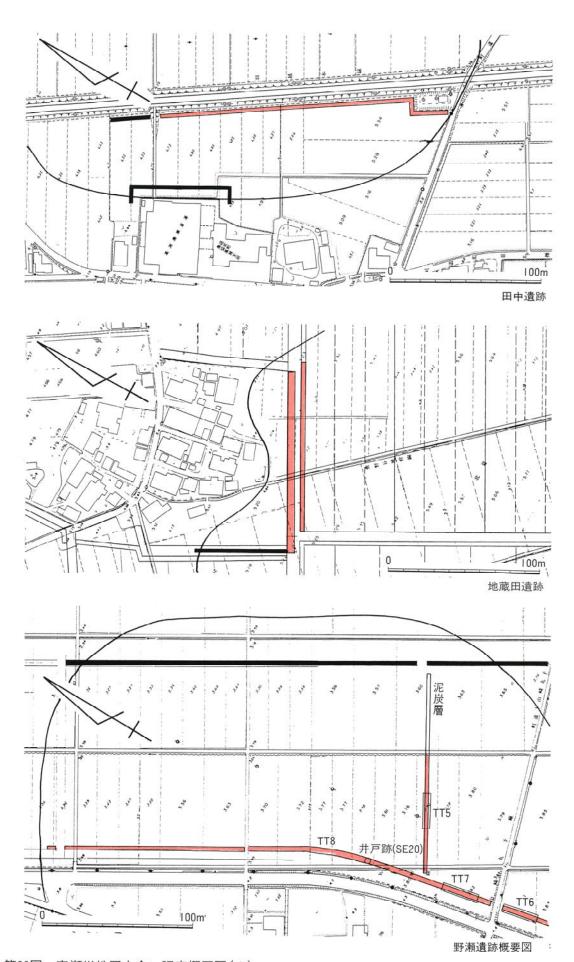
起 因 事 業 県営ほ場整備事業(高瀬川地区)

遺跡環境 遊佐町北部、月光川左岸の水田に立地する。遺跡は隣接して所在している。

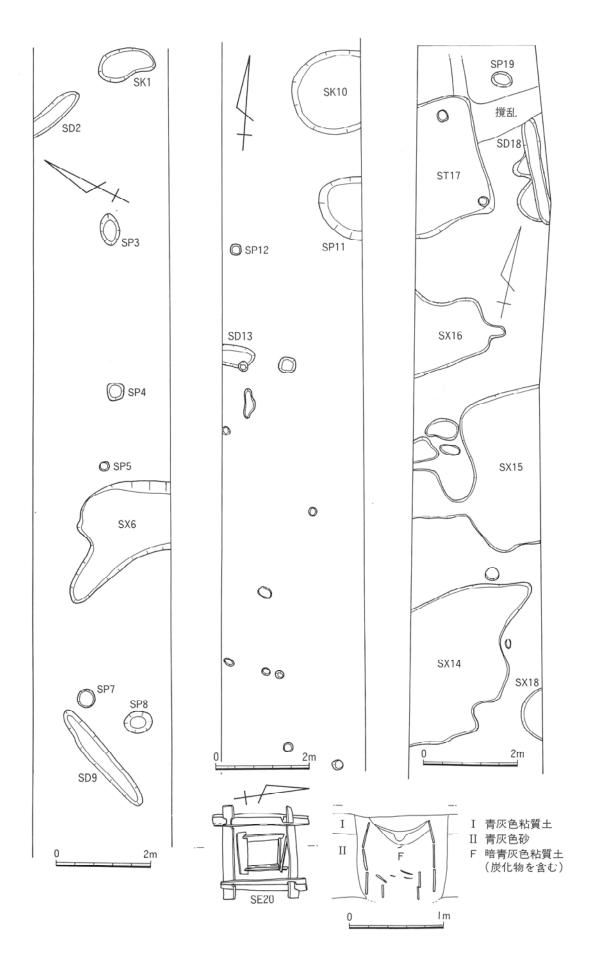
調査結果 平成5年度に実施されるほ場整備事業のうち、水路・道路の一部について立ち会い調査を行った。上山崎・田中・地蔵田遺跡では平安時代の遺物が数袋出土したが、遺構は未検出である。野瀬遺跡では、TT5・7で平安時代の土器を含む土壙、溝跡等が、TT6では性格不明の落ち込みのほか、平安時代初期の土器(須恵器)が出土した一辺2.7mの竪穴住居跡の約2分の1が、TT8では外枠3段内枠2段の井戸跡が検出された。(TT8は平成5年11月4~5日に調査実施)



第27図 高瀬川地区立会い調査概要図(1)



第28図 高瀬川地区立会い調査概要図(2)



第29図 高瀬川地区立会い調査検出遺構実測図



地蔵田遺跡調査風景



田中遺跡・調査風景



野瀬遺跡TT5 SKI



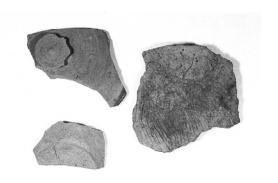
野瀬遺跡TT6完掘状況



野瀬遺跡TT8井戸跡完掘状況(SE20)



野瀬遺跡出土遺物



出土遺物



出土遺物

図版28 高瀬川地区立会い調査

(3)**鄉崎遺跡**(平成4年度登録)

所 在 地 山形県酒田市大字刈穂字郷崎46他

調 査 員 渋谷孝雄

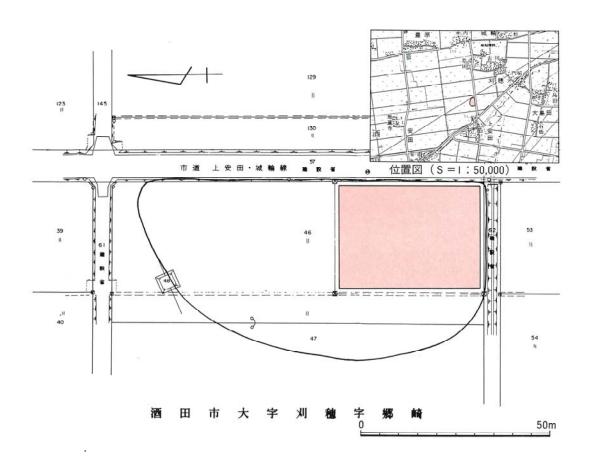
調査期日 平成5年9月8~9日

起 因 事 業 農村整備総合パイロット事業庄内地区、集落排水処理場建設

遺跡環境 遺跡はJR羽越本線本楯駅の南東約2.2km、国指定史跡「城輪柵跡」の外郭線 南西隅より南西約200mに位置する。平成4年10月の試掘調査で登録した遺跡 である。この時の調査では赤焼土器片、須恵器片が出土している。

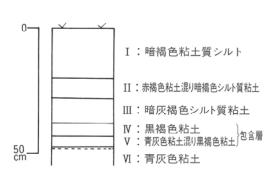
調査状況 今回の調査は処理場建設に伴って掘削が予定されている部分の調査を行って 記録保存とするために実施した。平成4年度の調査により当該部分に遺構が 分布する可能性はほとんどないと言うことが明かとなっていたため短期間の 調査となった。調査は掘削部分を重機を用いて徐々に掘り下げて、出土遺物 の採取を行い、地山面まで掘り下げた。

調査結果、IV層~V層にかけて平安時代の須恵器、土師器、赤焼土器片がポリ袋に2個分出土したが、当初予定されたとおり遺構は未発見であった。昭和55年のほ場整備によって動がされたのはIII層までで、これらの遺物はそれ以前に近隣から動いて再堆積したものと考えられる。





遺跡近景(北から)



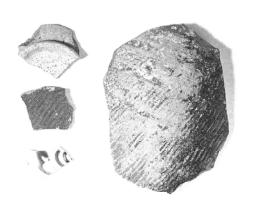
調査区南壁土層柱状図



調査風景



調査区西壁土層断面



出土遺物

図版29 郷崎遺跡

(4)小四王原A遺跡(遺跡番号1,443)

所 在 地 山形県西置賜郡白鷹町大字高岡字内ノ址391他

調 査 員 渋谷孝雄

調查期日 現地確認:平成5年7月22日 試掘調查:9月1~2日

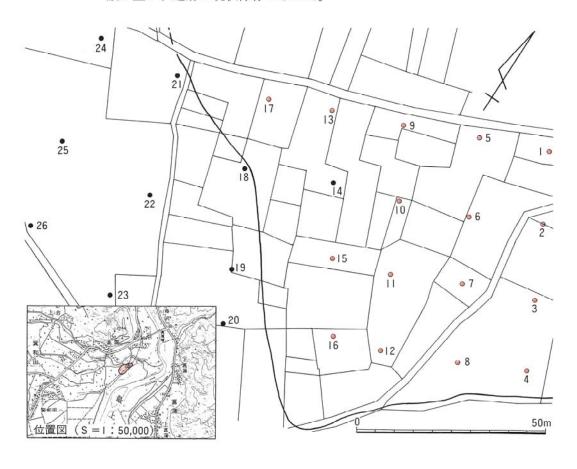
工事立会い:10月12日

起 因 事 業 農業公社牧場設置事業(高岡地区)

遺跡環境 遺跡はフラワー長井線荒砥駅の北方約1.3kmに位置し、最上川の形成した河岸 段丘上に立地する。昭和47年に浄水場の建設に伴う緊急発掘調査が白鷹町教 育委員会によって行われ縄文時代中期の竪穴住居跡が検出され、浄水場内の 一角に竪穴住居が復元されている。

調査状況 今回の調査は桑畑から牧草地にする工事との調整のために実施したもので、 開発予定地内における遺跡の範囲と遺物包含層、遺構確認面までの深さを把握し工事計画を変更するための資料を得ることを目的とした。1×1mの試掘坑を20mおきに設定し地山までの掘り下げを行った。

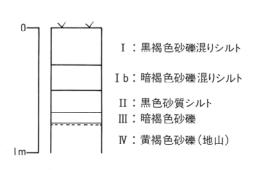
調査結果 調査の結果、25箇所の試掘坑のうち16箇所で縄文時代中期の遺構や遺物が検 出され、概ね地表下30cmまでは撹乱を受けた表土であることが明かとなった。 この結果を踏まえ、工事は30cm以内の範囲での土の移動に限定するという協 議が整い、遺跡は現状保存となった。



第31図 小四王原 A 遺跡概要図



遺跡近景(北から)



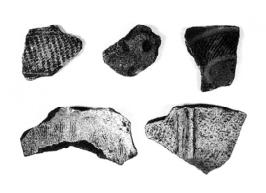
TP5土層柱状図



TP3土層断面



小四王原遺跡復元住居



出土遺跡

図版30 小四王原A遺跡

(5) 下柳 A遺跡 (遺跡番号152)

所 在 地 山形県山形市大字青柳字上柳

調 査 員 渋谷孝雄 長橋 至(4月21日)

調 查 期 日 試掘調査:平成5年4月21日 5月20~21日

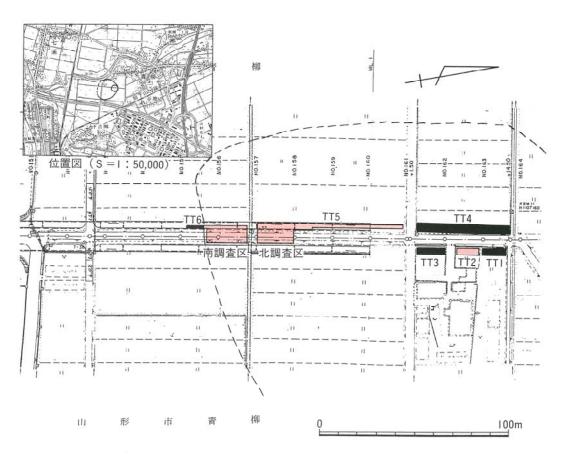
記録保存: 7月12~23日 (実質9日間)

起因事業 主要地方道山形天童線道路改良

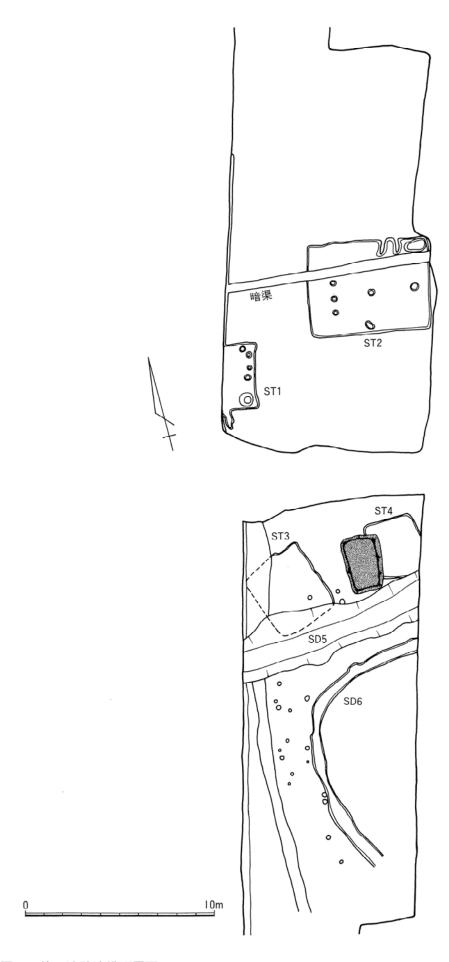
遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線羽前千歳線の北北東方約1.2kmに位置し、高瀬川の形成した自然堤防上に立地し、標高は107mを測る。

調査状況 4月の調査は予定路線の近接し下柳遺跡(五輪塔)が登録されていたため、 以前からの協議により、試掘で有無の確認を行うことを目的として行ったが、 中世の墳墓はなく、下柳A遺跡の西方で古墳時代の遺物が出土することが明 かとなったため、5月に範囲確認のため、重機を用いて試掘調査を実施した。 その結果、計画路線内に部分的に古墳時代の集落があることが判明したため、 その部分について記録保存の発掘調査を実施することとなったものである。

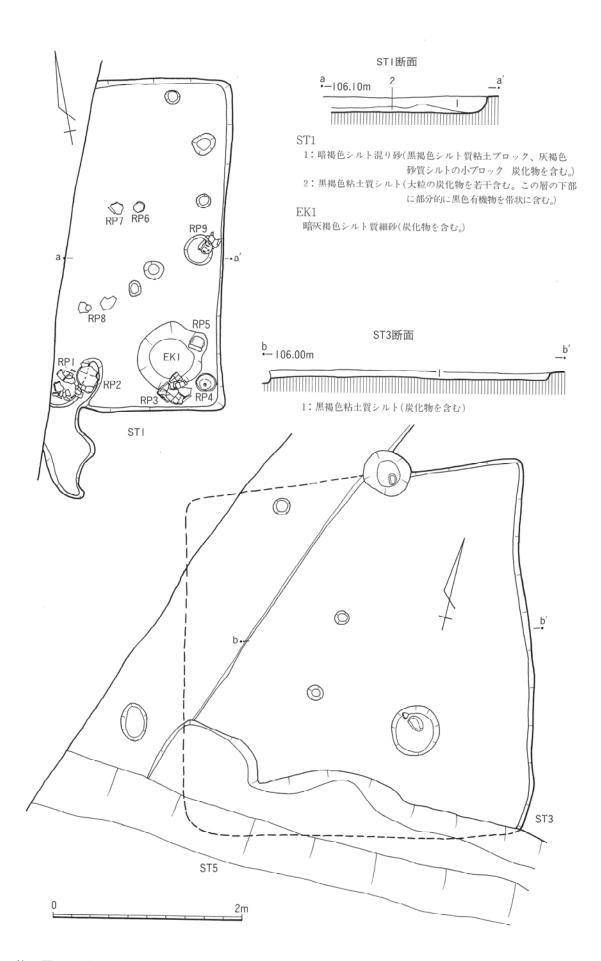
調査結果 調査の結果、東西に延びる幅約30mの自然堤防上で4軒の古墳時代の竪穴住 居跡を検出した。このうち、ST1から土師器の甕、甑、壺、碗が9個体、 ST2からは碗、壺各1個体と砥石、ST3、4からは須恵器の曃等が出土 した。これらの土器は古墳時代中期の南小泉II式の範疇で捉えられる。



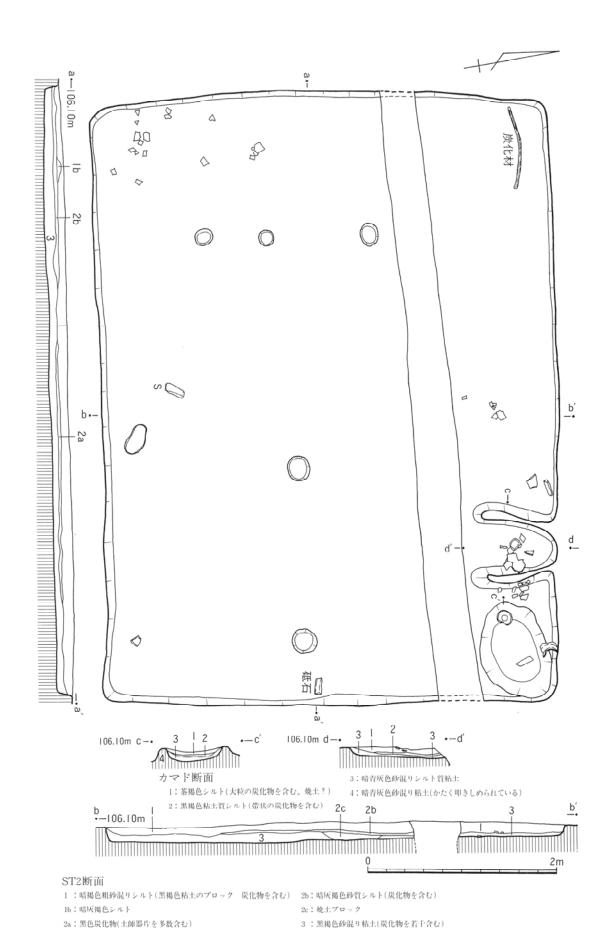
第32図 下柳A遺跡概要図



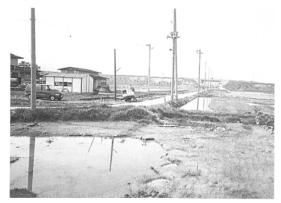
第33図 下柳 A 遺跡遺構配置図



第34図 下柳A遺跡遺構実測図(I)



第35図 下柳A遺跡遺構実測図(2)



遺跡近景



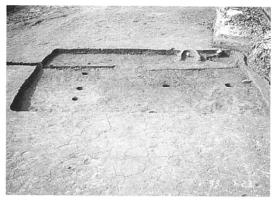
STI完掘状況



STI土器出土状況



STI土器出土状況



ST2完掘状況



ST2カマド

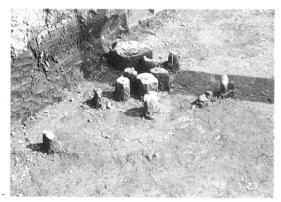


ST3完掘状況



ST4完掘状況

図版3Ⅰ 下柳A遺跡(Ⅰ)



ST4土器出土状況



SD6完掘状況



出土遺物



出土遺物



出土遺物



出土遺物



出土遺物



出土遺物

図版32 下柳A遺跡(2)

(6)小川内遺跡 (遺跡番号152)

所 在 地 山形県最上郡真室川町大字大沢字悪次郎2,029他

調 査 員 渋谷孝雄 杉山純一他

調查期日 試掘調査:平成5年9月22日

記録保存:11月24日~12月3日(実質8日間)

起 因 事 業 一般県道砂子沢小又釜渕停車場線凍雪害防止工事

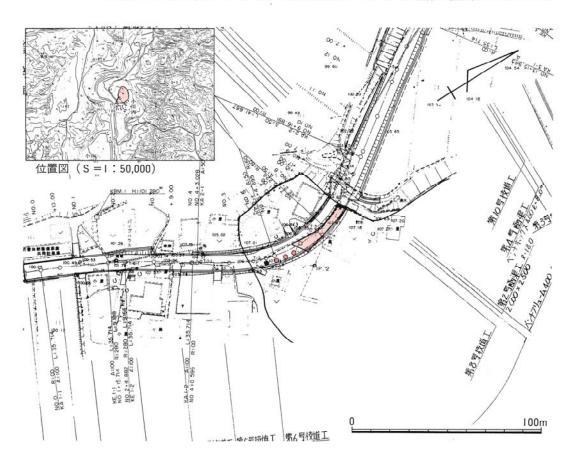
遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線真室川駅の北西方約4kmに位置し、小又川の形成した独立丘上の河岸段丘(残丘)上に立地する。標高は107mを測り、地目は畑地、宅地、水田、墓地等となっている。

試 掘 調 査 調査は道路拡幅予定地内にほぼ $5 \, \mathrm{m}$ おきに、 $1 \times 1 \, \mathrm{m}$ の試掘坑を10 箇所設定 し地山までの掘り下げを行った。

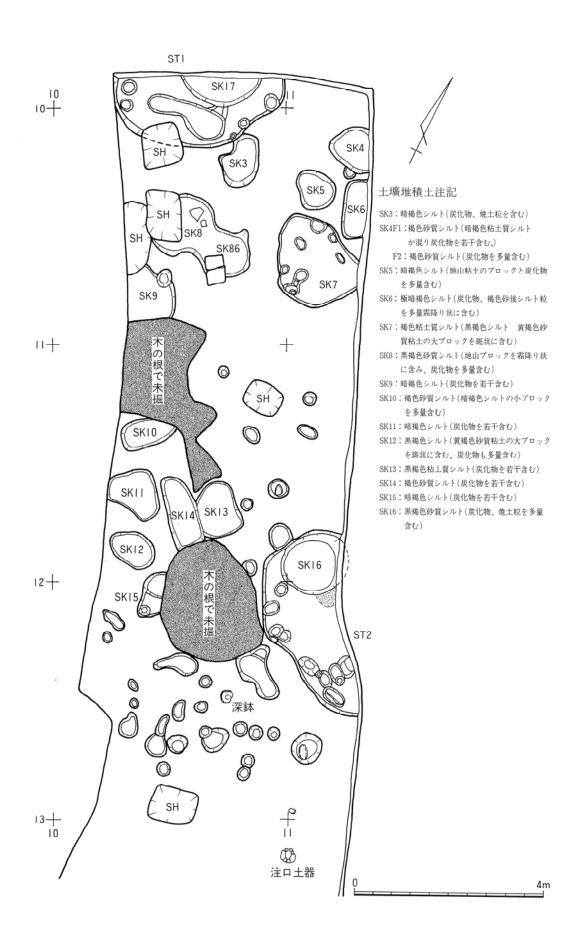
この結果、TP1を除く各試掘坑で縄文時代後期から晩期にかけての土器片と石器が出土し、遺構と考えられる土色変化も確認された。

この結果をもとに事業主体の県土木部と協議を行った結果、道路拡幅で破壊される恐れのある部分を対象として記録保存の措置を取ることとなった。

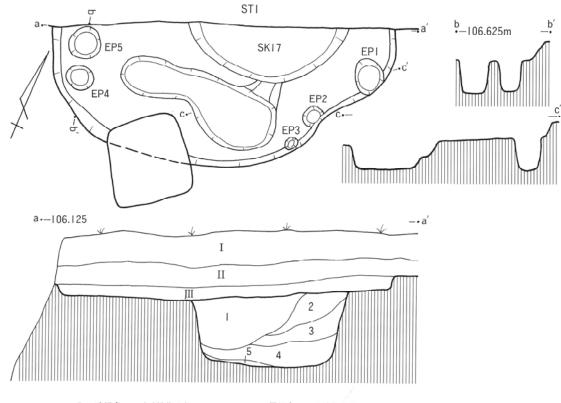
発掘調査はバックホーで約25cmの表土を除去したあと、手掘りで遺物包含層の掘り下げを行った。包含層は20~35cmの厚さがあるが、X10・Y15より南側は極端に遺物量が少なく、部分的な掘り下げでも遺構が検出されなかった



第36図 小川内遺跡概要図

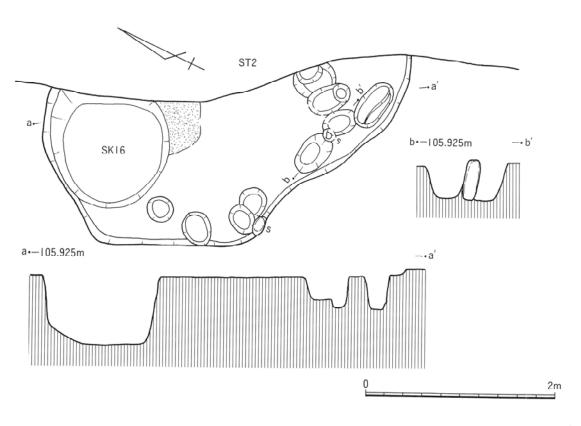


第37図 小川内遺跡遺構配置図



- I:暗褐色シルト(耕作土)

- 1: 黒褐色シルト(炭化物、焼土粒、小レキを含む)
- 2:褐色砂質シルト(炭化物を含む)
- 3:明褐色礫混りシルト
- 4:黒褐色砂質シルト
- 5:褐色砂礫



第38図 小川内遺構実測図

ことと、時間的な制約もあったためこの部分の調査を断念し、調査区北部の 遺構密集地の精査を中心とせざるを得なかった。

検出した遺構は竪穴住居跡2軒、土壙15基、ピット約30基である。

竪穴住居跡は2軒とも部分的な検出となっており、プランは両者とも略円形 で推定直径4m前後と考えられる。ST1は調査区の北端で検出したもので、 確認面からの深さは16~27cmを測る。周壁に沿って合わせて5基のピットが 検出された。ピットの深さは $5\sim34$ cmでP1、4、5が30cm以上の深さとな っている。なお、この床面で深70cmの土壙SK17が検出された。ST2は調 査区の南東部で検出した。確認面からの深さは5~12cmで、床面の周壁に沿 って9基のピットが検出された。14~39cmで立石の入ったものもある。この 床面でも深さ65cmの土壙が確認された。ST1・2とも炉跡は確認できなか った。

土壙は円形もしくは楕円形を基調としながらも不整形なものが多く、深さ等 もまちまちである。土壙の中には明らかに縄文時代後期の所産と考えられる ものがある。

遺物は包含層、遺構内から合わせて整理箱で23箱分が出土した。縄文時代後 期前葉と後葉及び晩期前半のものがあり、石器は磨製石斧、石鏃、磨石、凹 石がある。



遺跡近景(北から)

図版33 小川内遺跡(Ⅰ)



調査区完掘状況



土器出土状況(13-11区)

図版34 小川内遺跡(2)



STI他完掘状況



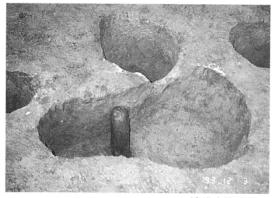
ST2他完掘状況



SK4~7完掘状況



ST2·SKI6完掘状況



12-10G遺構完掘状況



出土遺物



出土遺物



出土遺物

図版35 小川内遺跡(3)

(7)**大浦C遺跡**(米沢市遺跡番号381)

所 在 地 山形県米沢市中田町字大浦

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 試掘調査:平成5年6月1~2日

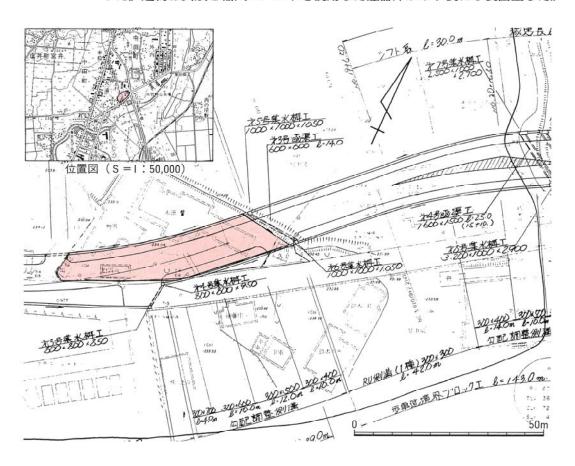
記録保存: 6月23日~7月1日 (実質7日間)

起 因 事 業 一般県道米沢浅川高畠線緊急地方道整備事業

遺跡環境 遺跡は米沢市役所の北北東方約2kmに位置し、最上川の形成した河岸段丘上に立地する。標高は233mを測る。具注暦の漆紙文書が出土し、奈良時代の郡衙と推定されている大浦B遺跡の東に隣接する。過去に農業関連及び宅地開発に伴って米沢市教育委員会の手による発掘調査が行われ、奈良時代と中世の遺構が検出されている。

調 査 状 況 試掘調査は予定路線内を対象に重機を使用して実施した。この結果、時期は 不明であるものの土壙数基と、多数のピットが検出されたため、記録保存の 発掘調査を実施することとなった。

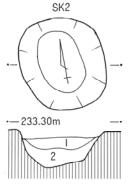
調査結果 調査の結果、古代に遡る可能性のある溝SD21と近世から近代の所産と考えられる土壙10基、大溝1条、溝1条とピット約220基が検出されたが、市教委の調査区の南に隣接する地域でありながら古代及び中世の遺構は未検出であった。遺物は呉須と輸入コバルトを使用した磁器片がポリ袋に3袋出土した。



第39図 大浦C遺跡概要図

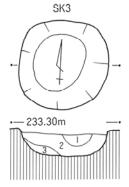


第40図 大浦 C 遺跡遺構配置図



1:10YR2/1 黒色粘土質シルト(10YR5/6 黄褐色粘土①の 1:10YR3/2 黒褐色シルト質粘土(①のブロックを含む。) 1:10YR2/1 黒色粘土質シルト

2:10YR3/1 黒褐色粘土質シルト(ほぼ純粋。)



3:2にさらに大きな①ブロックを含む。

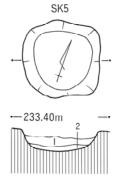
ブロックを若干含み、しまりなく やわらかい。) 2:10YR2/2 黒褐色粘土質シルト(①のブロックを含む。)

-- 233.30m

SK4

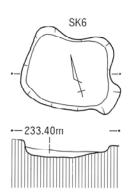
(地山①ブロックを含む。)

2:10YR3/1 黒褐色粘土質シルト

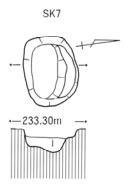


1:10YR2/1 黒色粘土質シルト(①プロッを霜降り状に含む。) 1:10YR2/1 黒色粘土質シルト(①プロックを霜降り状に 1:10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 2:10YR3/2 黒褐色シルト質粘土(①の大ブロックを斑状に

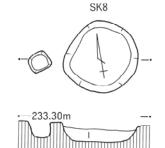
含む。)



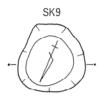
含む。)



(①を若干含む。)



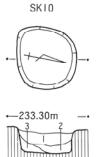
1:10YR2/2 黒褐色粘土質シルト(ほぼ純粋)



--233.30m

1:10YR3/2 黒褐色シルト質粘土(①を斑状に含む。) 2:10YR2/2 黒褐色シルト質粘土(ほぼ純粋)

SD22



1:10YR1.7/1 黒色シルト(炭火物を多量含む。)

2:10YR2/1 黒色粘土質シルト(炭化物を若干含む。)

3:10YR2/2 黒褐色シルト質粘土(純粋)

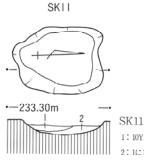
SD21堆積土(第40図)

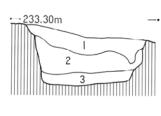
10YR1.7/1 黒色シルト(しまっており純粋。) SD22

1:10YR2/2 黒褐色シルト(①を若干含む。)

2:10YR7/2 にぷい黄褐色粘土と10YR 黄褐色粘土 が斑状に混る。

3:10YR3/3 暗褐色シルト質粘土





1:10YR2/2 黒褐色粘土質シルト(①を若干含む。) 2:1に10YR3/2 黒褐色シルト質粘土の大ブロックを含む。) O

2m

第41図 大浦C遺跡遺構実測図



遺跡近景(南西から)



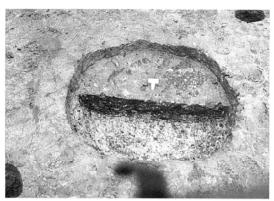
調查区全景



調査区完掘状況



調査区完掘状況



SK5土層断面



SK7土層断面



出土遺物



出土遺物

図版36 大浦C遺跡

(8)藤島城跡(遺跡番号1,716)

所 在 地 山形県東田川郡藤島町大字藤島字古楯跡

調 査 員 渋谷孝雄

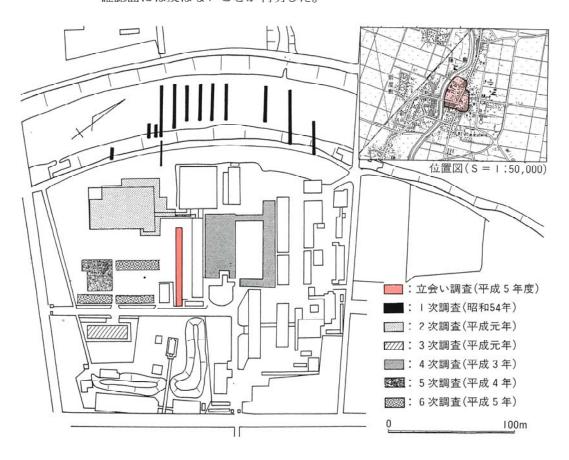
調査期日 立会い調査:平成5年10月4~5日

起 因 事 業 山形県立庄内農業高等学校自転車置場設置工事

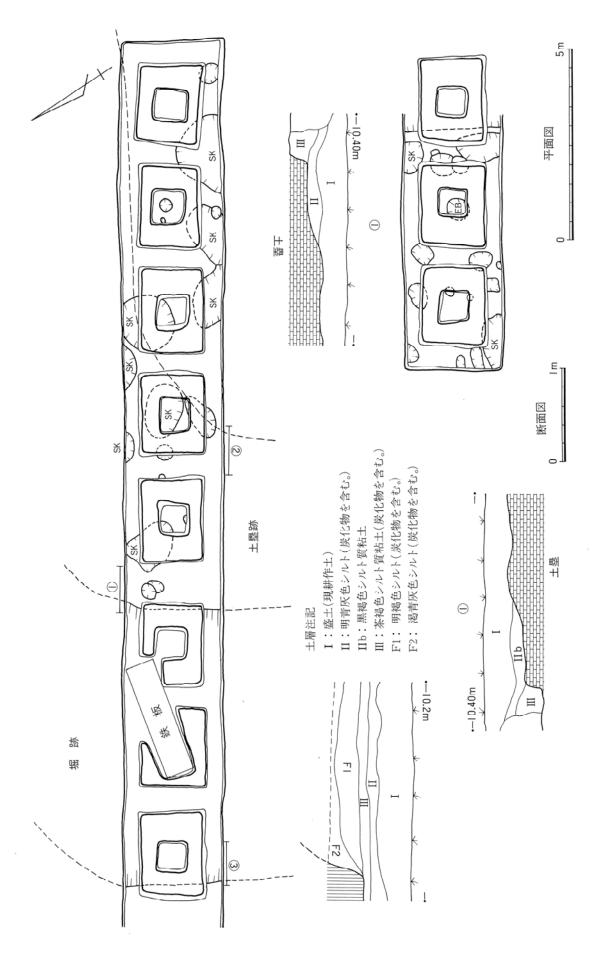
遺跡環境 遺跡はJR羽越本線藤島駅の東方約500mの藤島川右岸に位置する。平成5年 度まで河川改修や庄内農業高等学校の整備等に伴い6次の発掘調査が行われ、 15~16世紀を中心とする城跡であることが確認されている。

調査状況 今回の立会い調査は自転車置場の設置に伴って実施されたもので、過去の発掘調査や試掘調査の結果によるデータを検討した結果、事業による掘削が遺構確認面に及ばないと判断されたが、平面的な位置が本丸堀跡にあたることが確実視されたため、その検証を目的として実施した。

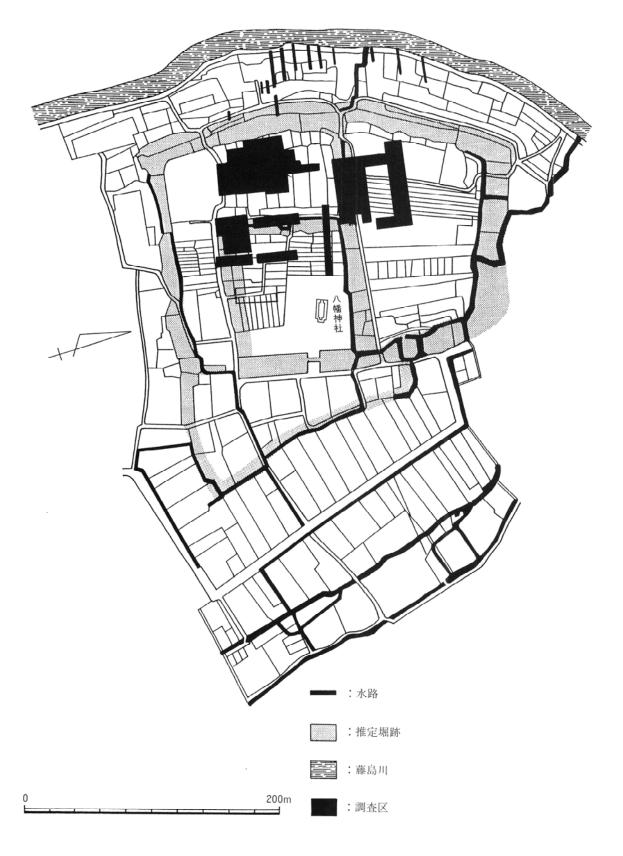
調査 結果 調査の結果、土塁の一部と堀跡と考えられる落込みを確認でき、本丸の北西 隅となることが明かとなった。また、今回の調査で本丸の規模が確定し、本 丸内部はトレンチャーによる現代の撹乱が著しいものの、土壙等が密集して 存在する様相が明かとなり、堀の外側は概して保存状況が良く明確な遺構が 残っていることが確認された。なお、当初の予測どおり、今回の工事は遺構 確認面には及ばないことが判明した。



第42図 藤島城跡概要図



第43図 藤島城跡遺構配置図



第44図 藤島城跡概要図



遺跡近景(東から)



南トレンチ遺構検出状況



北トレンチ掘跡断面



北トレンチ遺構検出状況



トレンチ交差部分遺構検出状況



南トレンチ遺構検出状況



遺構検出状況



出土遺物

図版37 藤島城跡

(9) 生石 2 遺跡 (遺跡番号2,060)

所 在 地 山形県酒田市大字生石字登呂田

調 査 員 渋谷孝雄

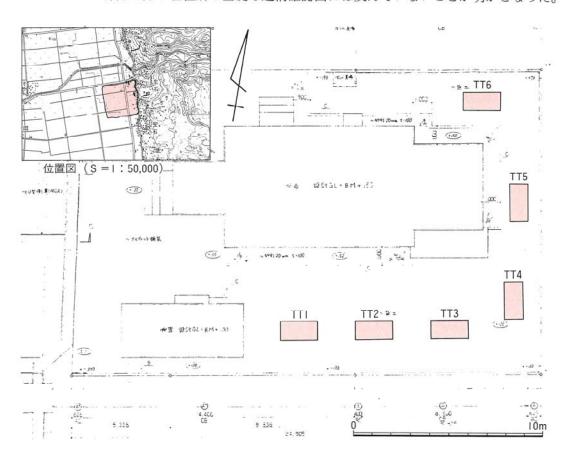
調査期日 平成5年9月10日

起因事業 酒田警察署東酒田駐在所建築

遺跡環境 遺跡はJR羽越本線酒田駅東方約8km、出羽丘陵の山麓部に位置し、矢流川等による小規模な扇状地に立地する。国道345号線道路改良、県営ほ場整備、酒田農協東平田支所建設等の事業に伴い山形県教育委員会及び酒田市教育委員会によって、合わせて6回の発掘調査が行われ、弥生時代前期・中期、奈良・平安時代の大規模な遺跡であることが明かとなっている。

調査状況 今回の調査は山形県警察本部及び酒田市の手続きミスにより駐在所が遺跡内に建設されたことによる事後調査であり、駐在所用地内に1×2mのトレンチを6本設定し、遺構遺物の分布状況と駐在所建設によってどの程度の影響を受けたかを調査し、周辺部を含めた今後の開発計画に対処するための資料を得る目的で実施したものである。

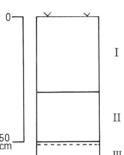
調査結果 調査の結果、各トレンチから平安時代の土器片が整理箱に1箱分出土した、 旧河川の一部も検出された。遺物包含層以下は良く残っており、浄化槽設置 部分を除き駐在所の基礎も遺構確認面には及んでいないことが明かとなった。



第45図 生石 2 遺跡概要図



調査風景



I:砂盛土

II : 黒褐色シルト質粘土(含含層)

Ⅲ:青灰色シルト(地山)

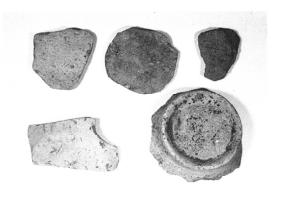




TT3土層断面



TT4土層断面



出土遺物

図版38 生石2遺跡

Ⅲ まとめ

平成5年度の遺跡詳細分布調査は、平成6年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業との調整を図ることを目的として実施した。また、一部記録保存のための小規模な発掘調査と立ち会い調査も実施した。

調査遺跡は58カ所を数える。そのうち、新たに発見され、登録した遺跡は3遺跡(中世城館跡)である。また、A調査やB調査・立ち会い調査により、遺跡の位置・範囲・遺跡名の訂正(または抹消)が必要となったものは5遺跡である。以下にその一覧を掲げてまとめとする。

なお、本書の発行をもって、新規遺跡および訂正等が周知されたものとみなす。

1. 新規発見遺跡

	(遺跡名)	(所在地)	(時 代)
1	志田館	東置賜郡高畠町大字二井宿	中世
2	楢橋館	飽海郡平田町大字楢橋	中世
3	嶽の腰5遺跡	飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰	縄文時代

2. 範囲・位置・登録抹消を要する遺跡

	(遺跡名)	(内 容)	(備	考)
1	月岡台の倉楯跡	範囲の訂正	平成5年3月	「分布調査 (20)」
2	下柳A遺跡	範囲の訂正	昭和53年3月	「山形県遺跡地図」
3	八反遺跡	位置の訂正	昭和53年3月	「山形県遺跡地図」
4.	小倉山遺跡	登録抹消	平成4年3月	「分布調査(19)」
5	南野B遺跡	登録抹消	平成5年3月	「分布調査 (20)

表一3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引

	遺跡名	地 図 名		遺跡名	地図名
1	堰場遺跡	糠の目	26	中丸遺跡	長井
2	小出沢A・B・C遺跡	羽黒山	27	岩ケ山遺跡	長井
3	八反遺跡	谷地	28	小倉山遺跡	羽後観音寺
4	長滯本楯遺跡	谷地	29	西の川遺跡	湯の浜
5	渡戸遺跡	天童	30	宮の前遺跡	富並
6	荒井原窯跡	天童	31	家根合遺跡	藤島
7	白山堂遺跡	延沢	32	嶽の腰 5 遺跡	湯ノ台
8	下原 a 遺跡	米沢東部	33	 月岡台の倉楯跡	本導寺
9	鱒ケ越戸洞穴	赤湯・二井宿	34	横岫楯跡	本導寺
10	志田館跡	二井宿	35	水沢館跡	本導寺
11	楢橋楯跡	余目	36	石倉館跡	本導寺
12	外久保遺跡	舟形	37	岡村遺跡	下名川
13	新町後遺跡	舟形	38	清水脇2遺跡	延沢
14	富沢Ⅰ遺跡	左沢	39	廻り屋遺跡	荒砥
15	徳田山遺跡	余目	40	植木場一遺跡	羽前小松他
16	天神山遺跡	山形南部	41	弓張平0遺跡	本導寺
17	下柳A遺跡	山形北部	42	河原田遺跡	山形北部
18	梨ノ木遺跡	左沢	43	上谷地 b 遺跡	米沢東部
19	滝ノ沢遺跡	左沢	44	ソリメA遺跡	尾花沢
20	八反稲干原遺跡	谷地	45	高瀬川地区立会い遺跡	吹浦
21	鷹の巣館跡	海谷•尾花沢	46	郷崎遺跡	羽後観音寺
22	吹屋敷遺跡	米沢	47	小四王原A遺跡	荒砥
23	宝殿神社遺跡	米沢	48	小川内遺跡	大沢
24	金谷楯跡	米沢東部	49	大浦C遺跡	糠の目他
25	大代原遺跡	米沢	50	藤島城跡	藤島
			51	生石 2 遺跡	羽後観音寺他

地図名:国土地理院発行(2万5千分の1)

山形県埋蔵文化財調査報告書194集 分 布 調 査 報 告 書(21)

平成 5 年度以降農林·土木事業他関係遺跡 国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡 東 北 横 断 自 動 車 道 酒 田 線 関 係 遺 跡

> 平成 6 年 3 月25日 印刷 平成 6 年 3 月30日 発行 発行 山形県教育委員会 印刷 山形印刷株式会社